

千葉市動物公園リスタート構想

平成26年3月

千葉市動物公園

目 次

I	はじめに	1
II	千葉市動物公園のこれまでのあゆみ	2
1	沿革	2
III	現状と課題	3
1	千葉市動物公園の現状	3
2	来園者の評価・ニーズ	17
3	教育・文化・観光関係者等へのヒアリング調査	23
4	検討会の意見・提案	28
5	課題のまとめ	30
IV	リスタート構想	31
1	目的	31
2	基本理念	32
3	基本方針	33
4	5つの取組目標	34
5	構想期間	35
目標 1	特徴ある動物展示の実現	39
1	動物の配置	39
2	施設整備	41
3	わかりやすいゾーン	43
4	展示方法	48
目標 2	教育・普及活動の充実	51
1	教育方針	51
2	教育・普及拠点の整備	53
3	教育・普及プログラムの充実	54
目標 3	国際的動物園への脱皮	57
1	種の保存	57
2	調査研究	60
目標 4	集客力の向上	63
1	ホスピタリティの充実	63
2	快適性と魅力の向上	66
3	戦略的な集客	72

目標 5	持続可能な運営体制の構築	77
1	財務体質の強化	77
2	管理運営体制の見直し	81
3	地域に開かれた動物園へ	84
4	省資源・資源循環型動物園を目指して	87

I はじめに



千葉市動物公園は、動・植物とのふれあいをテーマとし、動物園が持つ機能に公園的要素を加え、市民のための憩いの場として計画し、建設されました。

昭和60年4月に一次開園としてオープンし、その後、昭和63年4月に二次開園、平成3年に三次開園として遊園地を含む園全体が完成して以来、28年が経過しました。

一時は年間100万人を超える来園者を集め、大きな賑わいを見せましたが、少子高齢化や余暇の過ごし方の多様化など、社会構造や人々の価値観の変化に伴い、来園者数は年々減少傾向となっています。

飼育動物の高齢化や、それに伴う一頭飼いの増加、展示内容の陳腐化、また、遊戯施設の経年劣化がみられるようになり、来園者減少の一因につながっています。

そこで、開園50周年に向けて、園全体を見直し、賑わいを取り戻し来園者にご満足いただけるような施設として再生するため、千葉市動物公園リスタート構想を策定しました。

リスタート構想策定にあたって、平成24年度には、「千葉市動物公園のあり方に関する基礎調査」において、市民や来園者アンケートの実施、有識者による検討会の開催、千葉大学生によるワークショップの実施、他園の環境や方向性等の調査から、本園の置かれている状況や来園者の評価、現状や課題、今後の動物公園のあり方について検討を重ね、動物公園を「市民に身近な動物園（私たちの動物園）」、「都市の活性化につなげる集客施設」と位置付け、再生の方向性として決めました。

平成25年度では、基本理念や基本方針を定め、「千葉市動物公園リスタート構想」に取りまとめました。今後、次期実施計画等に具体的なアクションを位置付けて推進していきます。

千葉市動物公園は、これからも千葉市を代表する観光施設として多くの方に来園して頂けるよう、また、市民の方々の憩いの場として、教育学術関係施設として、「来てよかった、また来よう」と思っただけけるよう、職員全員の意識改革のもと、経営改善に取り組み、来園者へのサービス向上や人と動物が幸せに暮らせる環境づくり、動物の保護、繁殖技術の向上、次代を担う子どもたちの教育の場として一助となるように努めていきます。

平成26年3月

千葉市長 熊谷 俊人

II 千葉市動物公園のこれまでのあゆみ

1 沿革

千葉市動物公園は、主要な都市基幹公園に位置づけられ、人間の生活に深い関わりのある動物とのふれあいを通じて、自然に動物の生態を学べる、家族ぐるみのレクリエーションの場として整備されました。

開園までの経緯は、まず、市民からの強い要望により、昭和45年の市議会において動物公園設置要望書が提出されました。昭和46年度から基礎調査に着手し、動物公園協議会が発足、計画構想について検討が進められました。昭和49年1月には「千葉市動物園構想」が完成、53年には「仮称動物公園懇談会」が設立され、市民や専門家などの幅広い意見を取り入れながら、基本計画、基本設計を策定しました。

昭和56年に都市局公園緑地部に動物公園建設室が設置され、本格的な建設のスタートを切りました。建設地の源地区は、中央が低い台地になっており、梨の果樹園が広がっていました。その台地の斜面には現在もそのまま残っているコナラ、シラカシ、イヌシデなどの広葉樹やクロマツの林があり、台地の下の低地の北、西、南の三方は千葉国体（昭和48年開催）の駐車場跡地でした。現在、台地の上に動物の展示施設や広場レストランなどが設けられ、駐車場跡地は遊園地、駐車場、大池として利用されています。

昭和57年から建物の建設に入り、昭和60年に、205人を収容できる多目的レクチャールームのある教育棟と動物展示棟を合わせた「動物科学館」や中央広場、モンキーゾーン、子ども動物園、家畜の原種ゾーンが完成し、一次開園しました。搬入第一号動物のカナダカワウソがノースバンクーバー市より寄贈されました。

その後、ゾウやキリンを主体とした草原ゾーンと鳥類・水系ゾーンが加わり、昭和63年には全ての動物展示施設が完成し、二次開園しました。平成3年に12機種の遊戯施設を備えた遊園地「ドリームワールド」がオープンし、全ての施設が完成しました。

動物公園の総面積は約34ha、その半分は林や芝生などの緑地が占め、動物の放飼場総面積は約1.7ha、動物の獣舎は167室あります。駐車場は約4.6ha、普通車は1,500台が収容できます。

完成以来、千葉市民を中心に、県内の多くの市町村や近隣の県からも多くの入園者があり、平成24年2月には入園者2千万人を達成しました。

【開園式典（二次オープン）】



III 現状と課題

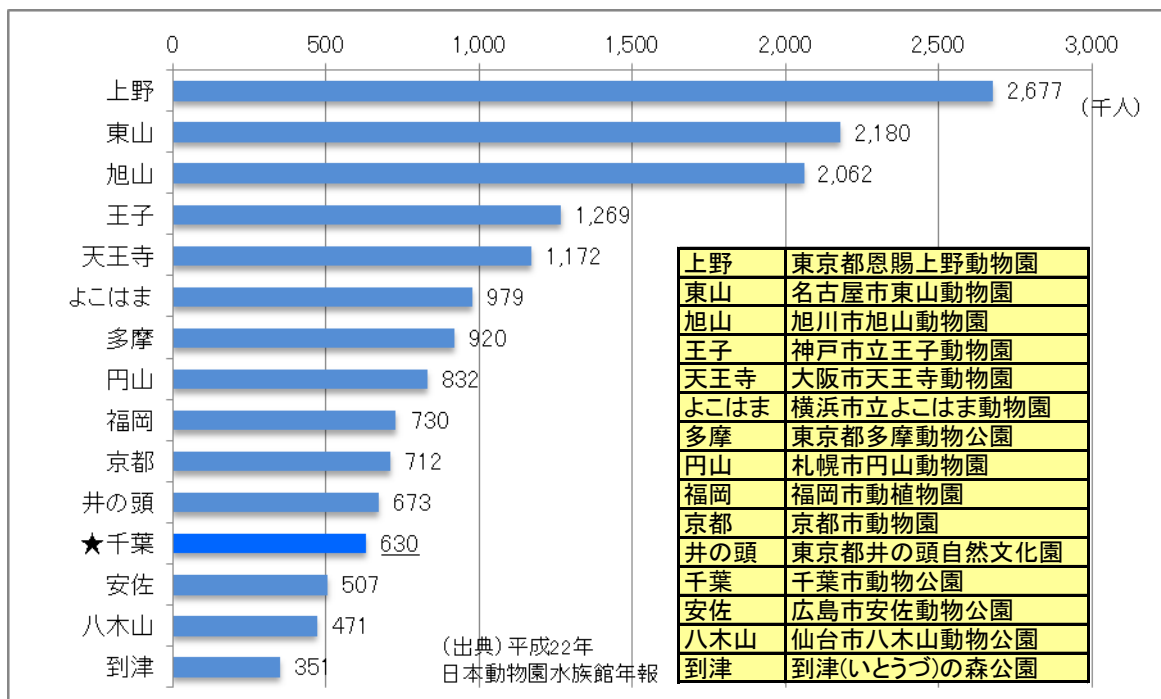
1 千葉市動物公園の現状

平成 24 年度に実施した「千葉市動物公園のあり方に係る基礎調査」において、動物公園の現状は以下のようになった。

(1) 入園者総数

平成 22 年度の全国動物園の入園者数をみると、上野動物園が 2,677 千人で最も多く、次いで東山動物園(名古屋市)が 2,180 千人、旭山動物園(旭川市)が 2,062 千人となっており、年間入園者数が 2,000 千人を超えるのはこの 3 園だけである。千葉市動物公園の 22 年度の入園者数は 630 千人と、上野動物園の約 4 分の 1 程度となっている。

図表番号 1 全国の主な公立動物園の入園者数



(注) 政令指定都市立と東京都立の動物園 (14 施設) と全国動物園の入園者数上位 10 位以内の公立動物園 (政令市・都立以外では旭山動物園のみ) の合計 15 施設を対象とした。※以降、「全国動物園」とは、この 15 施設を指す。

全国動物園の平成 22 年度の入園者数合計は 16,164 千人と、5 年前の 17 年度(16,501 千人)から 2.0%の減少となっている。

千葉市動物公園の 22 年度の入園者数は 630 千人と、17 年度(803 千人)と比べて 21.5%の減少となっている。千葉市は、全国合計に比べ、5 年前比減少率が 17 ポイント程度高くなっている。なお、18 年度は、レッサーパンダ風太君人気や風太君 2 世誕生及びテレビドラマロケ地 (CX 僕の歩く道 草薙剛主演) としての話題などで入園者が大幅に増加した。

図表番号 2 千葉市動物公園の入園者数と主な出来事

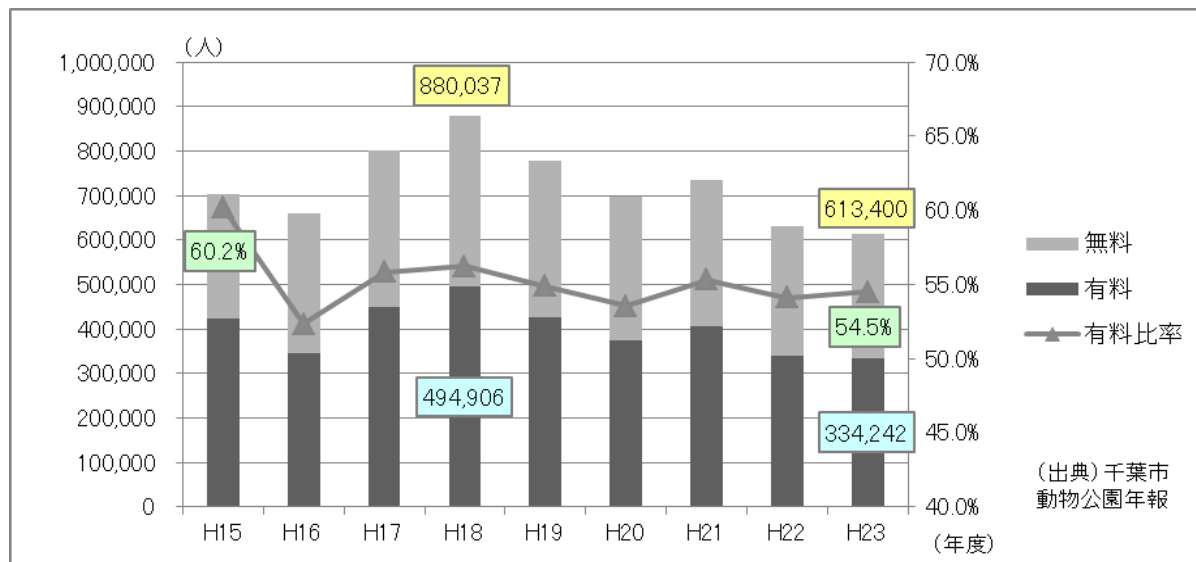
年度	入園者数 (人)	主な出来事
H15	702,816	オランウータン舎を新築し、一般公開開始
H16	658,969	ハシビロコウ産卵(無精卵) QRコードによる動物動画・音声の配信サービス導入【国内初】
H17	802,570	レッサーパンダ「風太」くん大人気 ポドキャストによる動物動画配信【国内初事例】
H18	880,037	テレビドラマロケ地として入園者増【フジテレビ・僕の歩く道(草薨剛主演)】 レッサーパンダ舎を増築し、一般公開開始
H19	777,042	レッサーパンダ「風太」の石像寄付を受け、一般公開開始
H20	697,120	レッサーパンダ屋外放飼場を増設 チンパンジー舎に櫓を整備(寄贈) ニシローランドゴリラのモモコが上野動物園へ移動(上野動物園との共同繁殖事業)
H21	735,066	絵本「ハゲコウのカスタネット」を学生が描き、園で出版 テレビドラマロケ地となる【フジテレビ・任侠ヘルパー(草薨剛主演)】 市民参加型文化祭「ちばZOOフェスタ・2009」を開始 「ちばZOOフェスタ・2009」の映像デジタル部門優勝作品(レッサーパンダ体操)をDVD化【市内幼稚園・保育園に配布】
H22	629,788	テレビドラマロケ地となる【フジテレビ・月の恋人(木村拓哉主演)】 新・水禽池を整備 「ちばZOOフェスタ・2010」研究発表部門導入 東日本大震災発生(園内施設一部に損傷、ケガ人及び飼育動物への被害はなし) 震災影響及び計画停電・市内発生 of 鳥インフルエンザの影響により 3/15(月)～4/15日(金)まで閉園 レッサーパンダ舎を増改築
H23	613,400	テレビドラマロケ地となる 【日本テレビ・家政婦のミタ(松島菜々子主演)】 入園者2,000万人達成 (財)千葉市動物公園協会 解散
H24	638,164	テレビドラマロケ地となる 【フジテレビ・ビューティフルレイン(豊川悦司主演)】 【日本テレビ・東京全力少女(武井咲主演)】

(出典) 動物公園年報(千葉市)ほか

(2) 有料・無料の状況

有料入園者の比率は、平成 15 年度は 60.2%であったが、その後は概ね 55%前後で推移している。平成 23 年度の有料の入園者は 334,242 人で全体の 54.5%となっている。

図表番号 3 入園者数(有料・無料)の推移

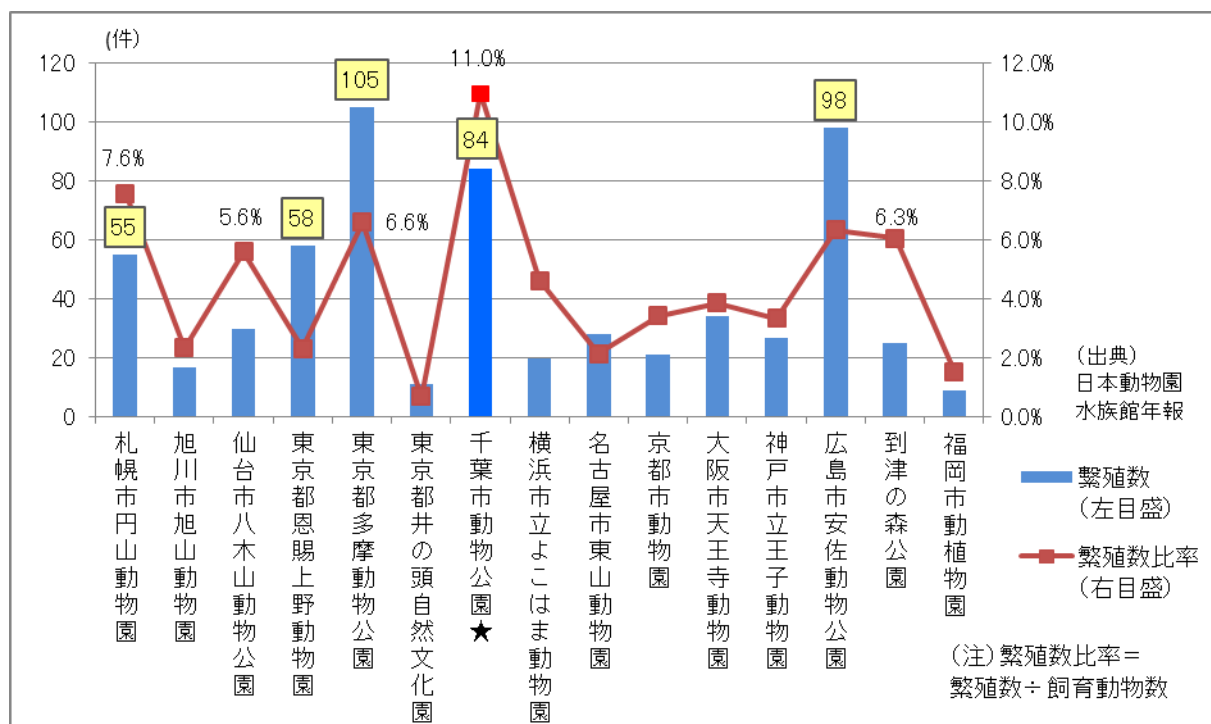


(3) 繁殖の状況

全国の主な動物園における繁殖数は、多摩動物公園(東京都)が 105 件で最も多く、次いで安佐動物公園(広島県)が 98 件、千葉市動物公園は 84 件で第 3 位となっている。

飼育動物数に対する繁殖数の比率をみると、千葉市動物公園は 11.0%と目立って高く、次いで、円山動物園(札幌市)が 7.6%、多摩動物公園が 6.6%などとなっている。

図表番号 4 繁殖数と繁殖数比率(飼育動物数に対する繁殖数の比率)



(4) 高齢動物

種の保存や自然保護の観点では、飼育動物を可能な限り長く飼育する（生かす）ことも動物園の重要な役割である。千葉市動物公園には、多くの種類に亘り、平均寿命前後の長寿個体が合計 83 点存在する。

(5) 子ども向け団体指導

保育園・幼稚園、小学校等に対して、団体指導を実施している。この実施状況を見ると、学校数、参加者数とも小学校が圧倒的に多い。平成 23 年度の団体数・参加者数は、小学校が 165 件・13,013 人で、15 年度に比べ 98 件(+146.3%)、8,044 人(+161.9%)の大幅増加、幼稚園が 39 件・3,297 人で、同じく 10 件(+34.5%)、1,048 人(+46.6%)の増加となっている。

図表番号 5 団体数・参加者数

	H15 年度	ピーク時		H23 年度	ピーク比増減		H15年度比増減	
		(年度)	(年度)		増減数	増減率	増減数	増減率
団体数	保育所	46	67 (H18)	53	-14	-20.9%	7	15.2%
	幼稚園	29	39 (H23)	39	0	0.0%	10	34.5%
	小学校	67	164 (H21)	165	1	0.6%	98	146.3%
	特別支援学校	13	17 (H20)	16	-1	-5.9%	3	23.1%
	その他	13	18 (H18・22)	14	-4	-22.2%	1	7.7%
	合計	168	—	—	287	—	—	119
人数	保育所	1,870	3,392 (H17)	1,889	-1,503	-44.3%	19	1.0%
	幼稚園	2,249	3,297 (H23)	3,297	0	0.0%	1,048	46.6%
	小学校	4,969	13,513 (H21)	13,013	-500	-3.7%	8,044	161.9%
	特別支援学校	447	710 (H23)	710	0	0.0%	263	58.8%
	その他	636	687 (H16)	307	-380	-55.3%	-329	-51.7%
	合計	10,171	—	—	19,216	—	—	9,045

(出典)動物公園年報(千葉市)

(6) 飼育課の普及活動

平成 19 年度から、千葉市内の小学校を対象として、希望する小学校に出向いて授業を行う「出張授業」を開始した。実績は、19 年度の 3 校・185 名から 23 年度は 24 校・1,707 名と大幅に増加している。レッサーパンダガイド参加者数は、20 年度の 4,615 人から 23 年度は 21,960 人と 5 倍弱の増加となっている。その他、23 年度は、動物への給餌と動物ガイドが 1,947 件、親子で飼育体験が 25 組、大人の飼育体験が 44 人となっている。

図表番号 6 飼育課の普及活動実績推移

活動項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
1. 出張授業	実施校数(校)	-	3	15	20	20	24
	参加児童数(人)	-	185	1,090	1,140	1,699	1,707
2. 動物への給餌時間の公開と動物ガイドの実施回数(回)		-	-	1,767	1,283	1,921	1,947
3. レッサーパンダガイド参加者数(人)		-	-	4,615	11,284	16,366	21,960
4. 親子で飼育体験	募集組数(組)	-	-	-	-	21	25
	希望組数(組)	-	-	-	-	69	58
5. 大人の飼育体験	募集人数(人)	12	44	44	44	44	44
	希望人数(人)	18	109	109	175	224	81

(出典) 動物公園年報(千葉市)

(7) 調査研究活動の場としての役割・機能

調査研究活動として、平成 18 年度以降の調査研究協力は 17 件となっている。

頻度としては、年に 2~3 件となっている。また、平成 21 年度と 22 年度には執筆等での協力も実施している。

また、会議発表では、平成 15 年度以降 20 回の発表を行っている。近年では、平成 23 年度に 4 回の発表を実施している。

(8) レクリエーション・観光の場としての役割・機能

平成19年～23年度の5年間のイベント・催事の開催・参加状況をみると、平成19年度は、全体の参加者は約11万人だったが、23年度は14万人と大幅に増加している。

23年度の個別項目をみると、「動物ガイド等」最も参加者数が多く、10万人を超えている。動物ガイドにおいては、平成19年度に比べ、参加者数は約4割増加している。

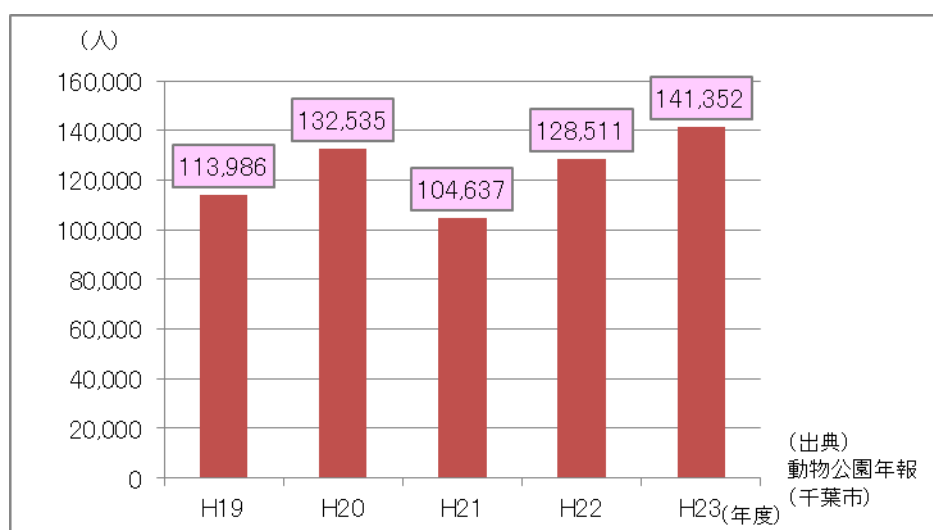
また、参加型イベントも参加者数は多く、3～4万人の参加者を集める催事となっている。

図表番号 7 イベント・催事の開催・参加状況

(人)

イベント・催事の種類と内容		H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
動物ガイド等	ワンポイントウォッチング ズーパーカー など	61,117	82,723	55,421	79,518	100,784
講演会等	動物公園講演会 サポーターズデイ など	127	459	343	163	1,520
飼育体験等	ZOOキッズデー サマースクール など	359	340	351	236	138
参加型イベント	クイズラリー ヒツジの毛刈り教室 クラフト作成 など	47,948	43,758	44,057	45,251	34,196
鑑賞型事業	音楽会 など	1,006	915	525	550	1,000
プレゼント	来園者プレゼント配付 など	739	1,770	538	854	504
支援事業	紙芝居会 など	2,690	2,570	3,402	1,939	3,210
合計		113,986	132,535	104,637	128,511	141,352

(出典) 動物公園年報 (千葉市)



(9) 管理運営

千葉市動物公園は、直営施設であり、都市局公園緑地部に所属している。会計は特別会計である。

全国15園の状況を見ると、運営形態は直営が最も多く、指定管理者制度を導入しているのは東京3園とよこはま、安佐、到津の6園となっている。所属は、建設局や都市整備局などが多いが、旭山は経済観光部、京都は文化市民局と、他と異なる所属となっている。会計は一般会計が最も多く、特別会計は旭山と千葉のみである。

旭山は入園料などの収入が支出の9割以上を占め、15園の中で唯一、事業収入だけでほとんどの支出を賄える動物園である。従って、特別会計の位置づけと想定される。

一方、千葉は特別会計であるが、支出に対して売上は3割にとどまり、支出の多くを一般会計からの繰入金で賄っている。

特別会計の場合、他の会計と区別される、基本的には独立した収支であることが一般的である。特別会計にする長所として、受益と負担の関係や、事業収支を明確にできること、事業収入の確保や歳出削減努力を促すこと、収支の透明性が高まることなどがある。一方で、収入が支出を大きく下回っている場合、繰入金の割合が高まり、財政運営の柔軟性を欠くと考えられる。

図表番号 8 運営形態と所属

名称	運営形態	会計	所属局・部名		経常経費 (千円)	事業収入 (千円)	事業収入 ÷ 経常経費
円山	直営	一般会計	環境局	—	730,861	339,853	46.5%
旭山	直営	特別会計	—	経済観光部	1,276,374	1,209,604	94.8%
八木山	直営	一般会計	建設局	—	699,144	286,538	41.0%
上野	指定管理者	(委託費)	建設局	公園緑地部	1,699,284	770,559	45.3%
多摩					1,520,918	236,643	15.6%
井の頭					554,109	112,886	20.4%
千葉	直営	特別会計	都市局	公園緑地部	1,097,075	334,006	30.4%
よこはま	指定管理者	(委託費)	環境創造局	公園緑地部	2,041,055	1,052,179	51.6%
東山	直営	一般会計	緑政土木局	—	2,294,576	627,009	27.3%
京都	直営	一般会計	文化市民局	—	562,920	170,388	30.3%
天王寺	直営	一般会計	建設局	公園緑地部	1,183,208	368,947	31.2%
王子	直営	一般会計	建設局	—	1,784,978	477,791	26.8%
安佐	指定管理者	(委託費)	都市整備局	緑化推進部	530,380	358,323	67.6%
到津	指定管理者	(委託費)	建設局	公園緑地部	402,997	300,405	74.5%
福岡	直営	一般会計	都市整備局	みどりのまち 推進部	700,137	142,774	20.4%

(出典) 各自治体ホームページより

(10) 職員配置状況

平成23年度末時点の組織と人員体制は、管理職5名（園長1、課長2、課長補佐2）、管理課11名（管理係4、施設係7）、飼育課26名（調整係5、飼育第一係6、飼育第二係8、子ども動物園係3、動物診療係4）の2課7係で、職員数は42人となっている。

1) 他園との比較

- 職員配置については、売改札と清掃は委託としている園が大半であった。
- 上野と多摩、井の頭の東京3園は1つの指定管理者が運営しているが、清掃は委託である。よこはま(指定管理者)は売改札も清掃も委託となっている。
- 安佐と到津は、売改札や清掃も指定管理者が行っている。
- 工事設備は職員で行っているところと、外注や委託のところに分かれる。

図表番号 9 職員配置状況

(単位:人)

	事務関係	動物関係	売改札	清掃	工事設備	その他	付帯事業	合計
円山	15	35	委託	委託	7	委託	委託	57
旭山	8	18	委託	委託	2	2		30
八木山	7	37	委託	委託	8	委託	委託	52
上野	8	71	25	委託	5	23		132
多摩	7	72	14	委託	7	11		114
井の頭	5	22	9	委託	5	0	0	41
千葉	7	28	委託	委託	外注	8		43
よこはま	6	26	委託	委託	5+委託	パート		91
東山	2	65	委託	委託	31	40		138
京都	7	35	委託	委託	外注	4		46
天王寺	11	42	委託	委託	委託		なし	53
王子	8	27				13		48
安佐	14	31	5	4			11	62
到津	11	21	5	3				40
福岡	5	23			4	6		38

(出典)平成22年 日本動物園水族館年報

(11) 財務内容

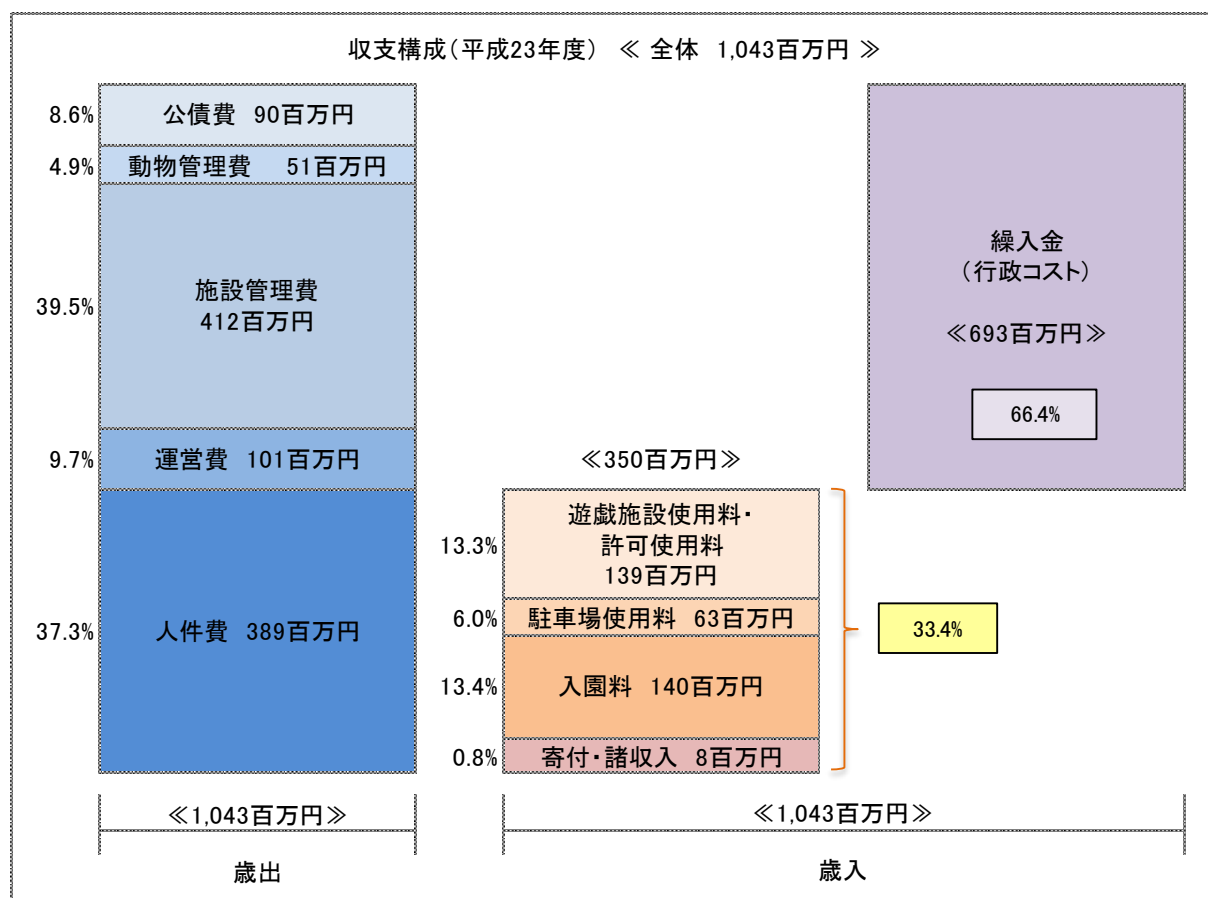
1) 全体の収支構成

平成23年度決算の歳入・歳出の総額は1,043百万円となっている。

歳出の内訳をみると、施設管理費(412百万円)と人件費(389百万円)の比率が、それぞれ39.5%、37.3%と4割近くを占めている。

歳入の内訳をみると、市からの繰入金(693百万円)と全体の3分の2(66.4%)を占めており、使用料や入園料などの事業収入は350百万円で、全体の3分の1(33.4%)となっている。

図表番号 10 収支構成(平成23年度)



(出典)平成23年 動物公園年報(千葉市)

2) 歳出の状況

平成23年度の歳出総額は1,042,647千円と17年度の1,596,425千円に比べて34.7%減少している。

この内訳をみると、公債費が184,716千円の減少(-67.2%)と、減少幅・率ともに最も大きい。このほか、金額的には施設管理委託料が122,000千円の減少、率としては協会補助金が63.3%の減少、運営委託費が54.9%の減少となっている。

これに対して、全体の4割弱を占める人件費については、ほとんど減少しておらず、歳出総額に占める比率は、17年度の25.0%から23年度は37.3%へ、12.3ポイント上昇している。

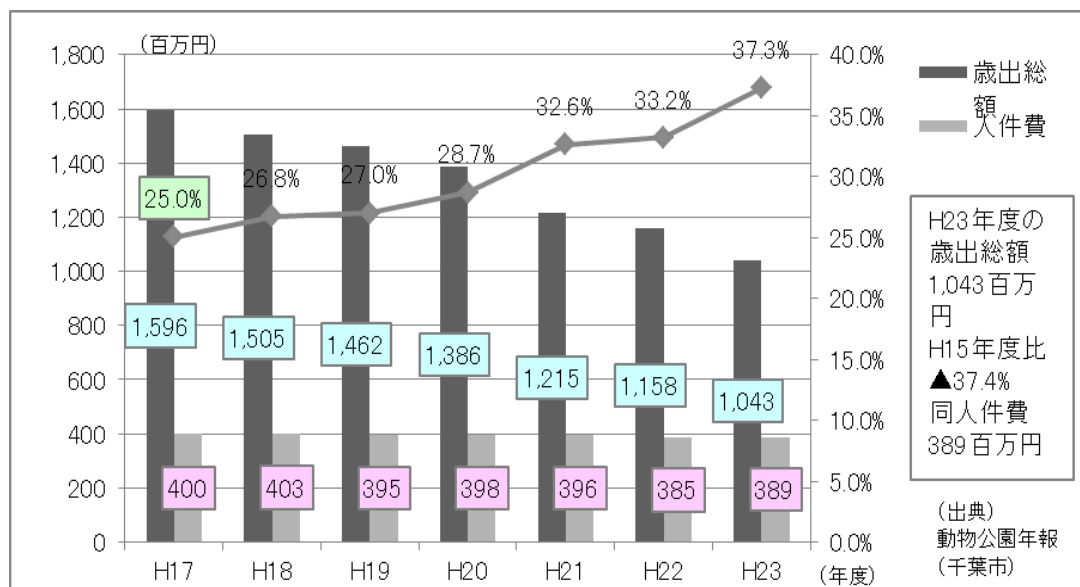
図表番号 11 歳出総額と内訳の状況

(千円)

	H17年度	H22年度	H23年度	H17/H23増減	
				増減数	増減率
歳出総額	1,596,425	1,158,410	1,042,647	-553,779	-34.7%
人件費	399,523	384,579	388,780	-10,743	-2.7%
運営委託費	66,533	59,850	30,000	-36,533	-54.9%
協会補助金	150,252	87,055	55,085	-95,167	-63.3%
その他運営費	23,441	894	15,948	-7,494	-32.0%
光熱水費	65,043	56,136	62,147	-2,896	-4.5%
施設管理委託料	395,459	284,266	273,459	-122,000	-30.9%
用地借上料	40,213	40,213	40,213	0	0.0%
その他施設管理費	73,948	41,700	36,030	-37,918	-51.3%
飼料費	41,726	36,614	32,589	-9,137	-21.9%
その他動物管理費	44,692	17,294	18,304	-26,388	-59.0%
施設整備委託料	7,073	23,196	0	-	-
施設整備工事請負費	13,713	28,140	0	(-13,713)	(-100.0%)
その他施設整備費	0	10,000	0	(0)	(-)
公債費	274,808	88,474	90,092	-184,716	-67.2%

(出典) 動物園年報(千葉市)

図表番号 12 歳出総額と人件費の推移



3) 歳入の状況

歳入総額は、平成 23 年度では 1,042,647 千円と 17 年度の 1,596,425 千円に比べ、553,779 千円の減少 (-34.7%) となっている。

内訳をみると、事業収入が 145,560 千円の減少 (-29.9%) となっており、中でも遊戯施設使用料が 72,833 千円の減少 (-36.4%) と大幅減少となっているほか、入園料収入も 55,446 千円の減少 (-28.4%) となっている。

繰入金は、17 年度の 1,064,435 千円から 23 年度は 693,435 千円へと、371,000 千円の減少 (-34.9%) となっている。

歳入のうち最も高い割合を占める繰入金は、平成 17 年度以降、65%前後で推移している。

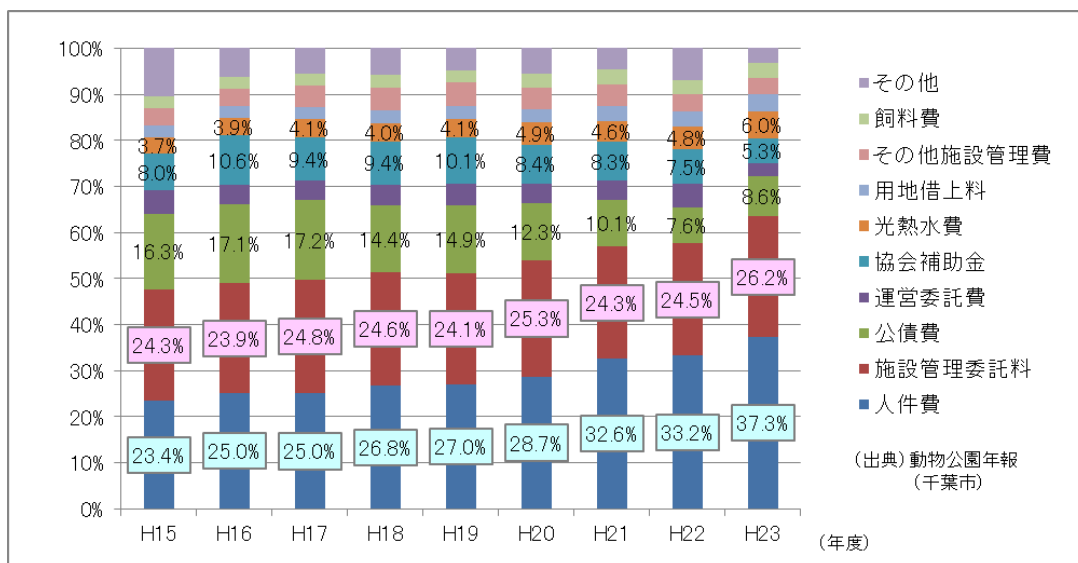
図表番号 13 歳入総額と内訳の状況

(千円)

	H17年度	H22年度	H23年度	H17/H23増減	
				増減数	増減率
歳入総額	1,596,425	1,158,410	1,042,647	-553,779	-34.7%
事業収入	487,020	345,475	341,461	-145,560	-29.9%
動物公園入園料	195,021	144,809	139,575	-55,446	-28.4%
駐車場使用料	80,498	64,167	62,960	-17,538	-21.8%
遊戯施設使用料	199,980	125,029	127,147	-72,833	-36.4%
許可使用料	11,521	11,470	11,778	257	2.2%
寄付金	0	20	30	30	—
繰入金	1,064,435	743,648	693,435	-371,000	-34.9%
諸収入	9,969	41,267	7,721	-2,249	-22.6%
市債	35,000	28,000	0	{ -35,000	{ -100.0% }

(出典) 動物公園年報(千葉市)

図表番号 14 歳入構成比率の推移



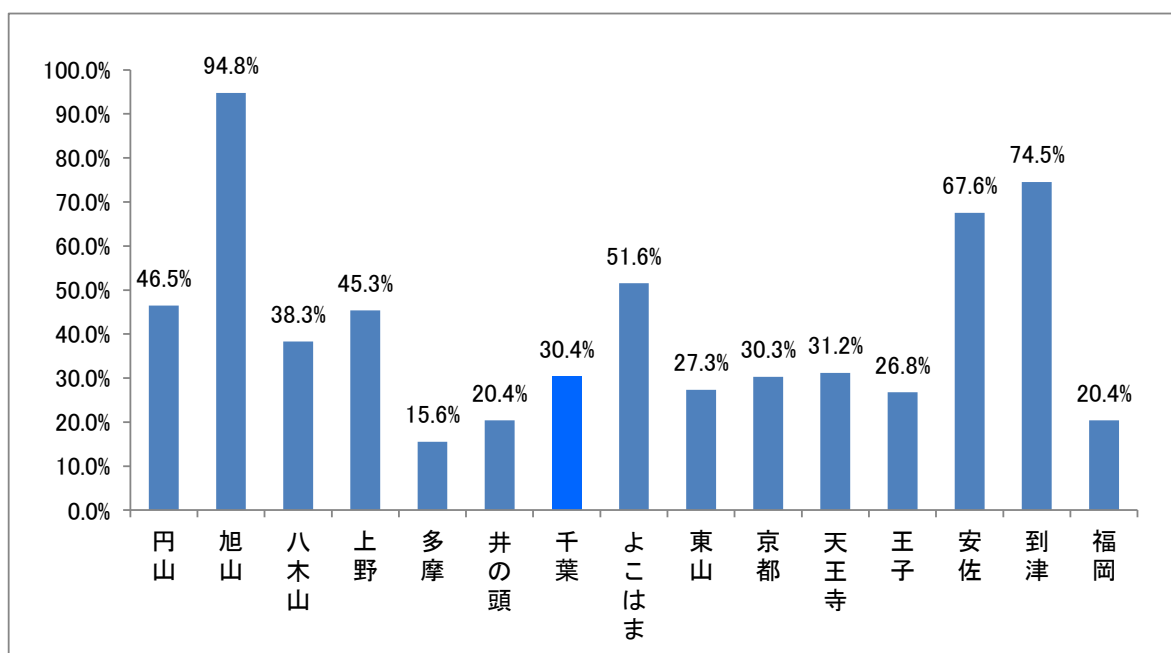
4) 全国 15 園との比較

① 経常経費に対する事業収入の割合の比較

主要動物園の、経常経費に対する事業収入（使用料、入園料等）の割合を比較すると、事業収入の割合が最も高いのは旭山で 94.8%となった。次いで、到津が 74.5%、安佐が 67.6%と続いている。最も低いのは多摩で 15.6%、次いで井の頭と福岡が 20.4%などとなった。

事業収入割合が半分を超えているのは、旭山、到津、安佐、よこはまの 4 園のみであり、多くの公立動物園は市税等からの繰入により成り立っていると推測される。

図表番号 15 経常経費に対する事業収入の割合



(出典) 日本動物園水族館年報

② 歳出総額の比較

平成 17 年以降の歳出総額の状況を見ると、旭山、よこはまを除くすべての園で歳出総額は減少している。

減少幅の大きい園は千葉、安佐、東京都 3 園（上野、多摩、井の頭）となっている。

平成 18 年に指定管理者制度を導入した東京都 3 園は、導入前後の平成 17 年と 18 年では、歳出総額が約 9 億 4 千万円減少している。

※上野、多摩、井の頭の 3 園は、一括で指定管理者制度を導入しているため、合計で比較

※八木山、天王寺、王子は一部非公表のため比較対象から外した

図表番号 16 歳出総額の推移

(百万円)

	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H17/H22増減	
							増減額	増減率
円山	766	766	766	741	715	731	-35	-4.6%
旭山	773	681	1,307	1,356	1,819	1,276	503	65.0%
東京都3園計	4,589	3,648	3,683	3,721	3,685	3,774	-815	-17.8%
上野	3,378	1,650	1,628	1,628	1,642	1,699	-1,679	-49.7%
多摩	922	1,449	1,513	1,552	1,488	1,521	599	65.0%
井の頭	290	548	542	541	555	554	264	91.2%
千葉	1,534	1,467	1,851	1,342	1,189	1,097	-437	-28.5%
よこはま	1,914	1,791	1,842	1,905	2,053	2,041	127	6.7%
東山	2,332	2,317	2,395	2,298	2,299	2,295	-37	-1.6%
京都	573	571	565	559	556	563	-10	-1.8%
安佐	671	604	604	607	609	530	-140	-20.9%
到津	443	372	374	378	388	403	-40	-9.1%
福岡	751	743	787	760	770	700	-51	-6.8%

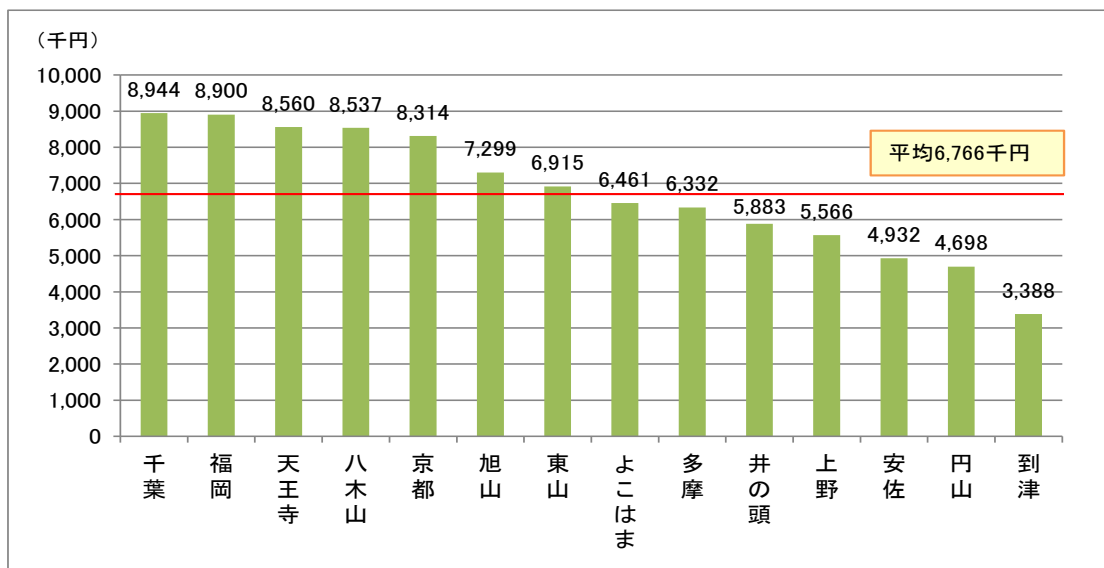
(出典) 日本動物園水族館年報

③ 職員一人あたり人件費

職員一人あたり人件費（職員給与÷職員数）をみると、「千葉」が8,944千円で最も高く、平均の6,766千円より2,178千円高くなっている。次いで「福岡」が8,900千円、「天王寺」が8,560千円などとなっており、平均を上回る施設は7施設となっている。一方、最も低いのは「到津」で3,388千円、次いで「円山」（4,698千円）、「安佐」（4,932千円）など。指定管理者制度を導入している「よこはま」、「多摩」、「井の頭」、「上野」はいずれも平均以下となっている。

最も多い「千葉」と最も少ない「到津」とでは2.6倍の開きがある。

図表番号 17 職員一人あたり人件費



(出典) 日本動物園水族館年報

(12) 動物舎の状況

動物舎は44あり、多くは昭和59年に建築され、28年を経過している。

鉄筋コンクリート造が大半を占めるが、ヒツジ舎、ヤギ舎、家禽舎、ミーアキャット舎、タンチョウ舎は木造建築である。

建築年度が同じ建物が多いため、修繕、立替時期も同時となることから、計画的修繕等の対応により、過大な支出が集中しないようにする工夫が必要といえる。

(13) 一般建築物の状況

一般建築物は27あり、昭和59年に建築されたものが多く、地区年数は28年を経過している。

鉄筋コンクリート造や鉄骨造が中心である。

来園者の学習の場である動物科学館は最も古い建物の一つとなっている。

(14) 動物の展示の状況

平成24年3月31日現在で、飼育動物種類数は143種、飼育動物数は803点である。哺乳類と鳥類が展示動物の中心であり、平成17年以降、種類は減少傾向、動物数はやや増加傾向にある。

図表番号 18 動物種類数と動物数

		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
飼育動物種類数	哺乳類	67	66	66	66	66	64	63
	鳥類	74	73	75	71	71	70	71
	爬虫類	6	6	7	6	6	6	7
	両生類	0	1	1	1	1	1	1
	魚類	-	1	1	1	1	1	1
	無脊椎動物	-	0	0	0	0	0	0
	合計	147	147	150	145	145	142	143
飼育動物数	哺乳類	422	419	450	433	420	444	456
	鳥類	301	315	328	305	310	291	312
	爬虫類	31	30	30	30	29	1	32
	両生類	0	2	2	2	1	2	2
	魚類	-	2	2	2	1	1	1
	無脊椎動物	-	0	0	0	0	0	0
	合計	754	768	812	772	762	767	803

出典：動物公園年報(千葉市)

2 来園者の評価・ニーズ

●ウェブアンケート実施要領

<p>1. 調査期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年 8 月 22 日～8 月 28 日 <p>2. 調査方法</p> <p>インターネットによるウェブ・アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査会社：㈱クロスマーケティング社 調査対象：同社に登録したモニター <p>3. 調査対象者</p> <p>① 千葉市民向け</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査対象：千葉市在住の満 16 歳以上の男女 有効回答：929 人 <p>② 千葉市以外住民向け</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査対象：千葉市以外の千葉県、東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県在住の満 16 歳以上の男女 有効回答：1,055 人 <p>③ 千葉市民の非来園者向け</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査対象：千葉市在住の満 16 歳以上の男女で動物公園に来たことのない人 有効回答：494 人
--

(1) 調査結果の概要

千葉市動物公園に対する千葉市民（来園者）の主な評価・ニーズは下表のとおり。

図表番号 19 千葉市民来園者の主な評価・ニーズ

項目	要点
居住地	・ 稲毛区・中央区が多く、若葉区・緑区は少ない
家族構成	・ 親と子(小学生以下)は 14.9%（「親と中学生以上の子」が 40.2%）
来園回数	・ 10 回以上 15%、5 回以上で 1/3（最近 1 年：0 回が 2/3） ・ 10 回以上は 10・20 歳代が多く 30 歳代が少ない ・ 小学生以下がいる家庭の来園回数が若干多い
同行者	・ 子連れ家族が約 6 割
来園目的	・ No.1 動物を見る 52.6%、No.2 子どもため 41.2%、No.3 動物とのふれあい 30.2%（遊園地で遊ぶこと：13.3%） ・ 1 位の「動物を見る」は属性間であまり差がない ・ 小学生以下がいる家庭で 1 位と 2 位の目的が多い
施設・イベント・サービス評価	・ 大変満足度：全体的に低い（レストラン・飲食・売店 1.2%、イベント・企画・行事 1.7%、遊園地 2.2%） ・ 満足度：動物展示施設、子ども動物園、入園料が高い ・ 不満度：レストラン・飲食・売店と遊園地が他に比べ目立って高い

動物を楽しむことができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 十分楽しめた 30.9% (楽しむことができた計 87.8%) ・ 楽しめた理由：ゆっくり・すぐ近くで見ることができた ・ 来園回数の多い人ほど十分楽しめている
楽しめた動物 楽しめなかった動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ No.1 レッサーパンダ 302、No.2 サル 126、No.3 キリン 121 ・ No.1 ゾウ 46、No.2 鳥類 33、No.3 レッサーパンダ 29
市民への有益性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大変有益」と思う人 42.6% (有益計 84.2%) ・ 年齢が高くなるほど「大変有益」と思う人の比率が高い ・ 来園回数が多くなるほど「大変有益」と思う人の比率が高い
求めること	<ul style="list-style-type: none"> ・ No.1 動物にふれあう機会の充実 57.9% (属性別の傾向に差はない)
最も見たい動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンダ 249 件、レッサーパンダ 91 件、ライオン 78 件、ゾウ 50 件
あるとよいもの 【施設等】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食・物販 84 件、休憩施設・設備 78 件、展示・ふれあい・教育 67 件 ・ 個別詳細意見
あるとよいもの 【イベント等】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種ショー62件、ふれあい54件、各種体験52件、多様なイベント45件、夜の動物園44件など
全体的な満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変満足 17.8%、やや満足 61.3%、満足計 79.1% ・ 来園回数の多い人ほど「大変満足」した人の比率が高い ・ 「大変満足した人」ほど「大変有益だと思ふ人」の比率が高い
大変満足できた人	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大変満足できた人」、「十分楽しむことができた人」、「大変有益だと思ふ人」の特徴

(2) 評価・ニーズ

1) 個別項目の満足度

- ・ 大変満足度は全体的にかなり低い。
—レストラン・飲食・売店 1.2%、イベント・企画・行事 1.7%、遊園地 2.2%
- ・ 満足度は全体的に低い中で、動物展示施設、子ども動物園、入園料が高い。
- ・ 不満度：レストラン・飲食・売店と遊園地が他に比べて目立って高い

① 大変満足度(「大変満足」した人の比率)

全体的にかなり低い。「入園料」(12.7%)以外はすべて10%を下回っている。動物園の中核である「動物展示施設」と「子ども動物園」はそれぞれ7.0%、8.1%であり、「動物の説明(資料)」や「従業員・ガイド等の応対」も3.6%と低い。

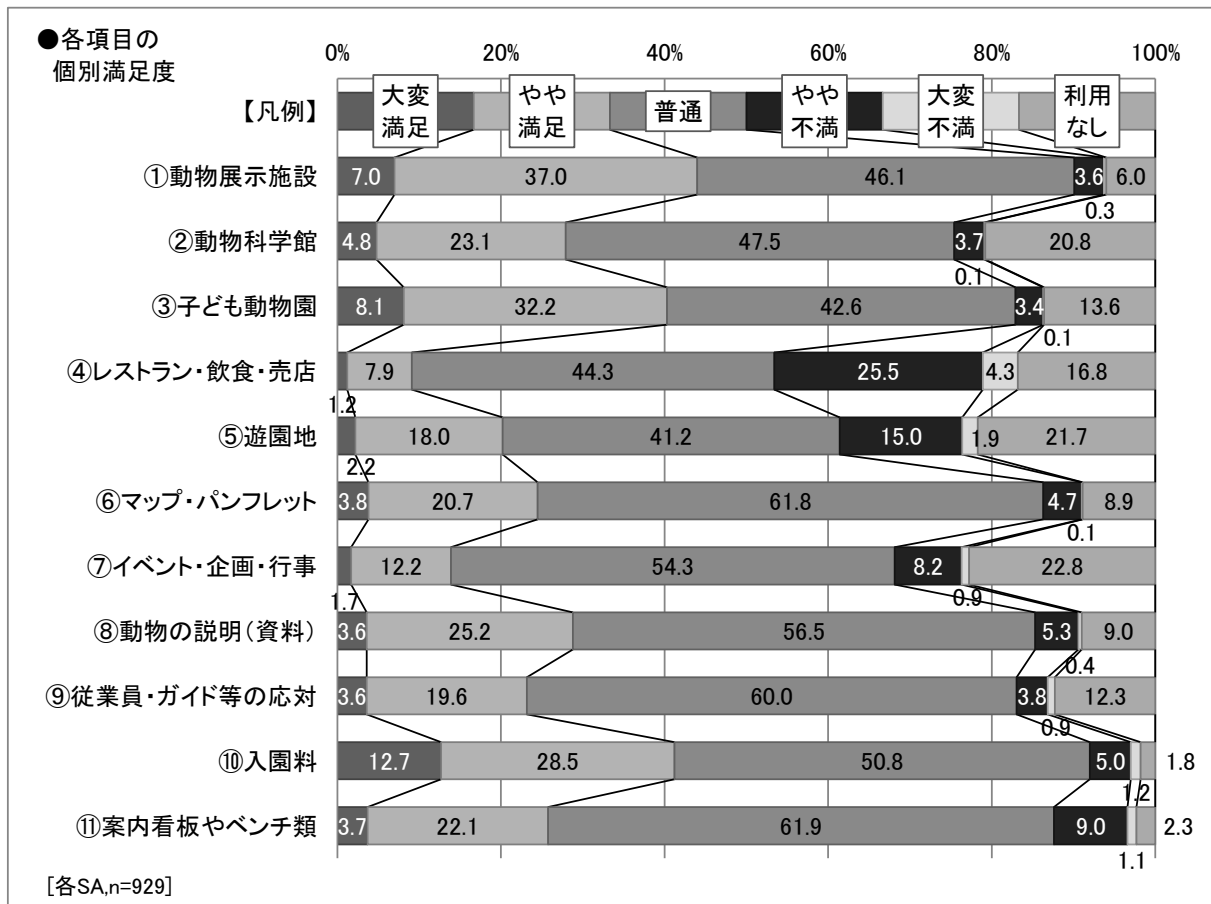
② 満足度(「大変満足」+「やや満足」の比率)

全体的に低い。「動物展示施設」が44.0%で最も高く、次いで「入園料」が41.2%、「子ども動物園」が40.3%などとなっている。一方、「満足度」の低いものは、「レストラン・飲食・売店」が9.1%と最も低く、次いで「イベント・企画・行事」が13.9%、「遊園地」が20.2%などとなっている。

③ 不満度(「大変不満」+「やや不満」の比率)

「レストラン・飲食・売店」が29.8%と目立って高く、次いで「遊園地」が16.9%、「案内看板やベンチ類」が10.1%などとなっている。なお、「レストラン・飲食・売店」については、「大変不満」が4.3%と、他に比べて目立って高い。

図表番号 20 施設・イベント・サービスに対する評価



2) 全体的な満足度と市民にとっての有益性

- ・ 全体的な満足度(大変+やや)は約8割と高いが、「大変満足」は2割弱と低い。
- ・ 8割強の市民が「有益」(大変+やや)と考え、4割強が「大変有益」と思っている。一存在意義を高めるためには、市民に「大変有益」と思ってもらうことが重要。
- ・ 「大変有益」と思ってもらうには、「大変満足」してもらうことが重要。

① 全体的な満足度

千葉県動物公園の全体的な満足度については、「大変満足」が17.8%、「やや満足」が61.3%で、両者をあわせると「満足」した人は8割(79.1%)に上る。

一方、「不満」(やや不満+かなり不満)な人は3.1%に止まっている。

市民にとって満足度の高い施設であることがわかる。

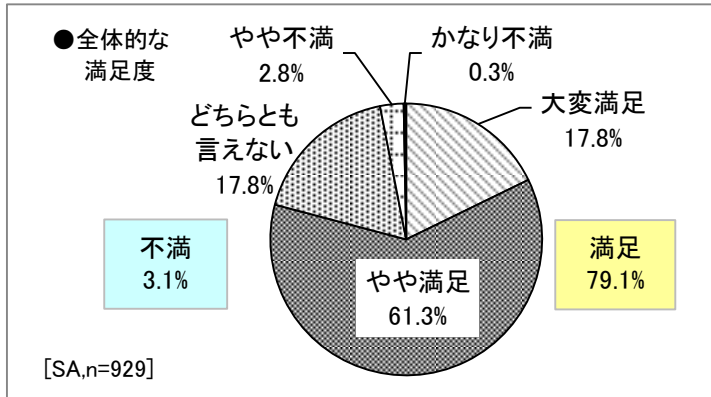
② 市民にとっての有益性

「千葉県動物公園は市民にとって有益な施設だと思うか」の問いに対して、「大変有益だと思う」(大変そう思う)が42.6%、「やや有益だと思う」(ややそう思う)が41.6%で、両者をあわせると「有益だと思う」(そう思う)市民は84.2%に上る。

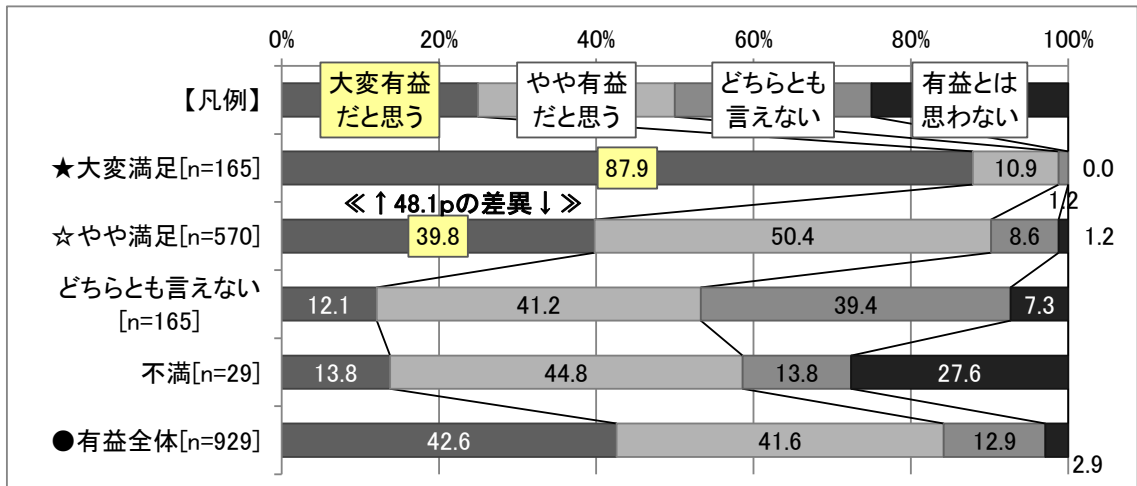
3) 全体的な満足度と有益性の関係

千葉市動物公園が市民にとって「大変有益だと思う人」の比率は、「全体的な満足度」で「大変満足した人」は87.9%と「やや満足した人」(39.8%)より48.1ポイント高い。市民に「大変有益」と思ってもらうためには、全体的な満足度で「大変満足」していただく必要がある。「やや満足」程度では効果が薄い。

図表番号 21 全体的な満足度



図表番号 22 市民にとっての有益性と全体的な満足度



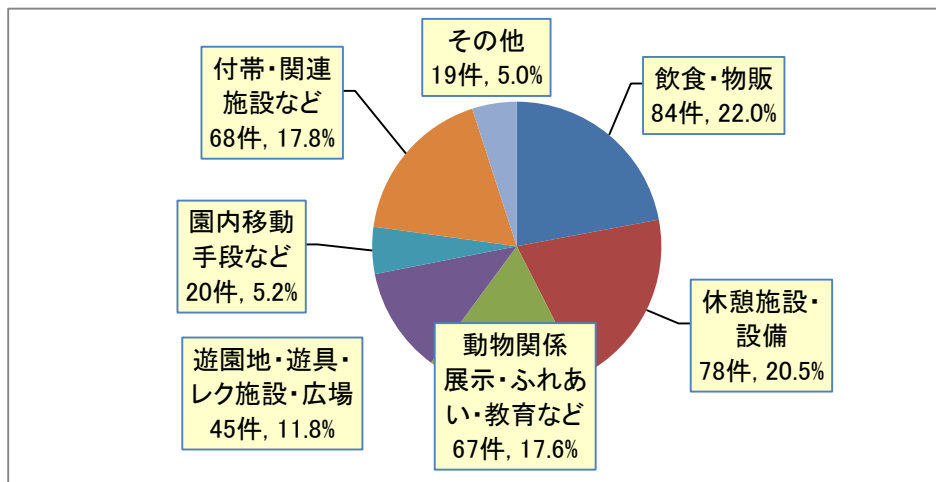
4) 要望・意見（自由意見）

- ・施設面ではレストランやカフェとおみやげ店(みやげ物)及びベンチ等の休憩施設、動物の展示・ふれあい施設の充実。
- ・イベント面では、各種ショーが最も多かったが、次いで、ふれあいや各種体験が多くなっている。
- ・共通してニーズが高いのは、動物とのふれあいや飼育・餌やりの体験の場と機会の充実である。

① あるとよい施設・設備

レストランやカフェ、気の利いたおみやげ等の「飲食・物販」に関する要望・意見が84件(22.0%)で最も多く、次いで「休憩施設・設備」に関するものが78件(20.5%)、「動物関係(展示・ふれあい・教育など)」が67件(17.6%)、「遊園地・遊具・レク施設・広場」が45件(11.8%)、「園内移動手段など」が20件(5.2%)となっている。

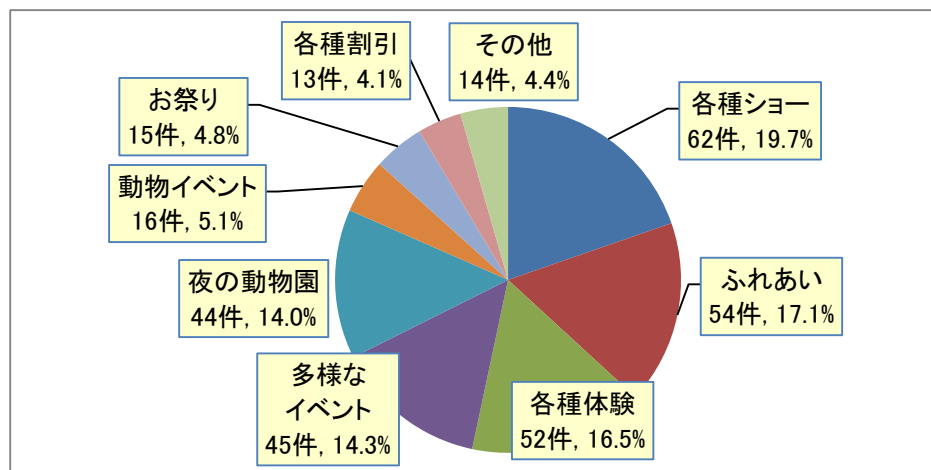
図表番号 23 あるとよい施設・設備



② あるとよいイベント

「各種ショー」に関する要望・意見が82件(19.7%)で最も多く、次いで「ふれあい」に関するものが54件(17.1%)、「各種体験」が52件(16.5%)、「多様なイベント」が45件(14.3%)、「夜の動物園」が44件(14.0%)となっている。

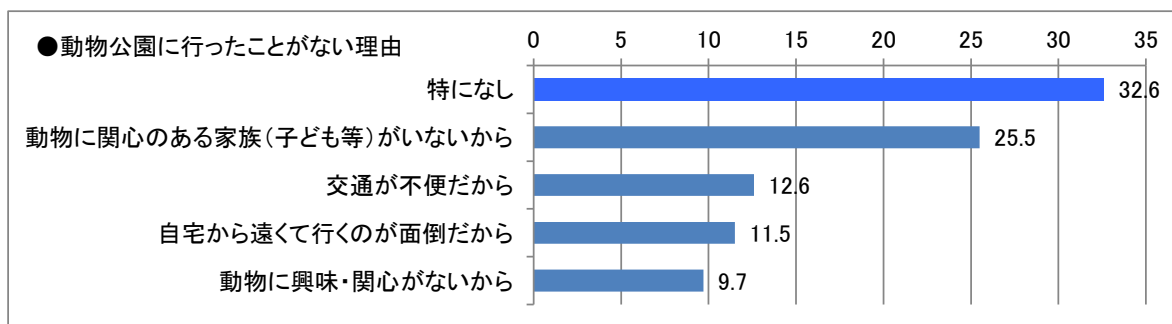
図表番号 24 あるとよいイベント



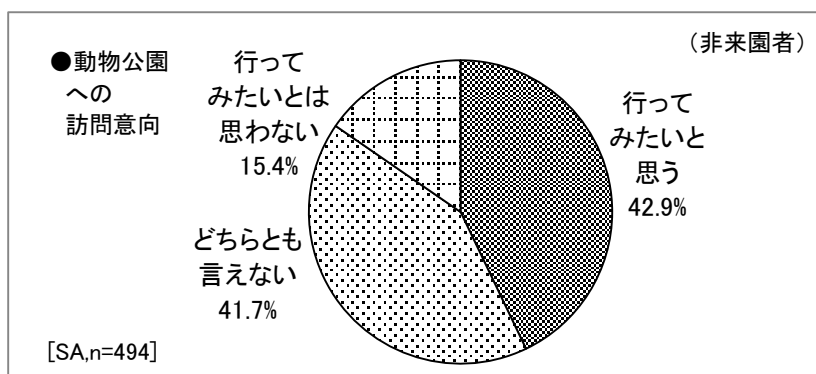
(3) 非来園者(市民)の意向

- ・ 千葉市動物公園に行ったことがない最大の理由は「特になし」(32.6%)。
- ・ 来訪意向については、「行ってみたいと思う」人が42.9%。
—情報発信・プロモーション次第では来園に結び付けられる可能性が高い。

図表番号 25 動物公園に行ったことがない理由(上位5項目)



図表番号 26 動物公園への訪問意向



3 教育・文化・観光関係者等へのヒアリング調査

(1) 関係団体ヒアリング

千葉市内の保育園・小中学校等の教育関係者や美術館・博物館等の文化施設、自然体験プログラムを提供する団体及び交通機関に対して、千葉市動物公園の存在意義や連携の可能性について意向を把握した。以下、項目ごとに主な意見を列挙する(各々順不同)。

図表番号 27 教育・文化・観光関係者等の評価・ニーズ

存在意義	① 子どもの教育・健全育成に欠かせない施設
	② 動物とのふれあいはとても有意義
	③ 自然保護活動はとても重要であり市として有意義な施設
	④ 市民の環境学習・レジャー面で有意義な施設
提案・要望	① 高齢者(健常者)の入園料の有料化
	② 高齢者の来園促進とボランティアとしての活用
	③ 遊園地は無用
	④ 自然の遊び場の整備
	⑤ 園内移動手段の整備
	⑥ 季節感のあるイベントの充実
	⑦ 多様な施設利用
	⑧ 教育的価値とレクリエーション機能の両方を追求・PR
	⑨ 連携をとりやすい体制づくり
	⑩ 広報PRの専門担当の配置
	⑪ レストランの充実
	⑫ 楽しませ方の工夫
連携可能性	① 行動する動物園
	② 自然体験プログラムの共同開発・実施
	③ 季節ごとの多様なカリキュラムの開発・提示
	④ 千葉都市モノレールとの連携
	⑤ 連携内容の工夫が必要
	⑥ 共存共栄に向けた積極的な連携

(2) 千葉大学生によるワークショップ

今後のあり方の参考とすべく、千葉大学の学生に動物公園内で一日過ごしてもらい、若者の視点で課題の指摘や集客方法等の提案を受けた。

1) 実施要領

下表の要領でワークショップを開催した。

図表番号 28 千葉大生ワークショップ実施要領

参加者	・ 大学生 8名 (千葉大学教育学部芸術学研究室に協力依頼)
開催時期	・ 10月20(土)～21(日)(2日間) ※ 20日は合宿により調査結果とりまとめ
開催場所	・ 10/20(土) 株ちばぎん総合研究所会議室及び動物園内 ・ 10/21(日) 千葉市動物公園 動物科学館内レクチャールーム
スケジュール	<p>《10/20(土)》</p> <p>10:30 ちばぎん総合研究所(稲毛区)会議室 集合 オリエンテーション実施 (実施要領・動物公園の現状について説明)</p> <p>11:00 稲毛駅から電車、モノレールにて動物公園へ移動 (公共交通機関も評価対象とする) 終日園内自由行動(昼食も評価対象とする)</p> <p>16:00 実査終了 17:00～ 調査結果とりまとめ、報告準備</p> <p>《10/21(日)》</p> <p>13:00 動物園内 会議室にて 結果報告会 (学生の視点で課題や対応策についてとりまとめ) 質疑応答</p> <p>15:00 終了</p>

2) ワークショップ（調査）結果概要

① 千葉市動物公園の率直な感想

《全体感想》

- 全体として、動物公園のコンテンツは充実している。

《個別感想》

- ・ 思った以上に、動物の種類が豊富で見応えがある。
- ・ 園内の環境も清潔。
- ・ 動物との距離が近いゾーンがあり、親しみやすい。
- ・ 中央広場から各ゾーンへアクセスしやすい。
- ・ 各ゾーンに個性が溢れる →趣向を凝らしている&空間も変化に富んでいる。

② 動物の見せ方

《方向性》

- パフォーマンス要素を重視する（動物・飼育員・ボランティアがパフォーマー）。
- 「動物との距離が近い」を千葉市動物公園全体の売りに。

《個別具体策》

- ・ 子ども動物園は魅力がある→もっとアピール。
- ・ 「ナイトクルーズ」で夜行性の動物の様子がよくわかる。
- ・ ごはんタイムをもっと魅力的にしていける。
- ・ 動物のことをよく知っている人の言葉を直に聞く機会を増やす。

③ 動物の情報を見せる

《課題》

- 掲示物の管理をしっかりしてほしい、ゾーンによって情報の内容や量がバラバラ、本当に知りたい情報がない。

《対応策》

- ・ 動物の基本的な情報を伝える（種目、原産地、個体名、写真等）。
- ・ 楽しみながら学べる情報動物クイズ（その動物の面白いエピソード、動物が語りかけるような説明、易しい言葉使い、イラストを多用するなど）。
- ・ より深く知るための情報（動物の細かい習性とその理由、その動物の稀少性、学術的なもの、生態系に関するもの）。

④ 園内全体の情報の内容と見せ方

《課題》

- 全体マップの情報不足、案内・順路がわかりにくい、イベントやごはんタイムの時間がわかりにくい、ゾーンの名前が魅力的じゃない。

《対応策》

- ・ マップ：おススメのルートと見どころを含めたマップをさらにわかりやすく。
- ・ 園内全体のデザイン：ゾーンごとに雰囲気統一し、案内をより充実させる。

⑤ 動物園以外の施設に関して

《対象1》 (⑤-1)

▪ 園内環境

《具体策》

・ インフラの整備：道路の舗装修繕、トイレの壁の穴（デザイン）をふさぐ。

《対象2》 (⑤-2)

▪ レストラン

《具体策》

・ 味のこだわりがない→名物メニューの開発(地産地消・動物園ゆかりの品)。

《対象3》 (⑤-3)

▪ 売店

《具体策》

・ レッサーパンダに頼りすぎ&ショップで買うものがない。

- →オリジナルグッズの開発、地域工芸家の作品・オリジナル T シャツ、地域でとれた野菜等。

《対象4》 (⑤-4)

▪ 展望台

《具体策》

・ 展望台周辺スペースが活用されていない。

- →チャレンジショップの出店スペースに。

《対象5》 (⑤-5)

▪ 遊園地

《具体策》

・ 乗りものからの風景が楽しめない→観覧車から見える景色の情報提供の工夫。

・ 新しいアトラクション→負担の少ないローラーコースター等。

《対象6》 (⑤-6)

▪ 動物科学館

《具体策》

・ スペースの有効活用→市民向けにフリースペースを提供してはどうか。

・ 図書館の存在感が薄い→他の機能とリンクさせてみては（例：カフェ×図書館）。

⑥ 動物園公園の新しい魅力の提案

《提案1》 (⑥-1)

▪ 大人を対象とした憩いのスペース

《具体的内容》

・ 落ち着いたカフェスペース(特に大人向けの)。

・ ピクニックを楽しめるような設備(芝生の拡張→草原のように！)。

・ 中央広場をもっと活発な空間に（移動屋台・噴水・フリーマーケット）。

《提案2》 (⑥-2)

- 物語(恋愛)性の付加

《具体的内容》

- ・ エミューをラバーズスポットに⇒つがいで飼育されている動物をフィーチャー。
- ・ 観覧車のゴンドラにランダムで「縁結びシート」を設置。

《提案3》 (⑥-3)

- 大池の可能性 (美しさが知られていない)

《具体的内容》

- ・ 池エリアの無料開放→気軽に来ることができる (地域の交流の場)。
- ・ 夜間開放で池がライトアップされる→落ち着いた雰囲気デートスポット化。
- ・ 池に双眼鏡があったら野鳥観測が促されるのでは。

《提案4》 (⑥-4)

- その他 (ステージと空いている檻の活用)

《具体的内容》

- ・ ステージで踊る子どもがいた→オープンマイクを設置し、子どもの「表現の場」を提供する。
- ・ 空いている檻に来園者を入れて「ヒト」のキャプションをつける。撮影スポットにもなる。

⑦ 千葉市動物公園をさらに魅力的にする4つの要素

提案事項		該当番号
1.	パフォーマンスを意識する (動物・飼育員・ボランティア)	②
2.	情報提供の仕方の整理	③、④
3.	最低限の改善	⑤-1
4. 新しい視点	4-1: ターゲットの開拓	⑥-2
	4-2: 地域を巻き込む	⑥-3

(注) 該当番号: ①~⑥までの番号

4 検討会の意見・提案

今後のあり方に対する意見やアドバイスをいただくため、有識者や学校教育関係者、及び、周辺施設の関係者からなる「千葉市動物公園あり方検討会」を設置・開催した。

(1) 実施要領

1. 開催目的	千葉市動物公園の現状と課題及び役割、存在意義などについて意見やアドバイスをいただき、今後の同園のあり方の参考とする。
2. 開催	第1回 10月11日(木) 第2回 10月24日(水)
3. 開催場所	千葉市動物公園 動物科学館会議室 ほか

(2) 検討会委員

分野	所属	氏名
学識経験者	千葉大学教育学部 准教授	神野 真吾
動物園関係	前上野動物園園長	小宮 輝之
動物生態学関係	千葉県立中央博物館 主席研究員 兼 環境教育研究科科长	落合 啓二
学校教育関係	千葉市立源小学校 校長	鈴木 和子
学校教育関係	千葉市立みつわ台中学校 校長	齋藤 篤
福祉関係	みつわ台保育園 園長	御園 愛子
社会教育関係	千葉市美術館 学芸課長	田辺 昌子
社会教育関係	NPO法人千葉自然学校 事務局長	遠藤 陽子
社会教育関係	NPO法人 フォーエヴァー 副理事長	廣崎 典子
マーケティング関係	そごう千葉店 販売促進部 売出計画担当課長	薄井 徹

(順不同・敬称略)

(3) 検討会での意見・提案

2回の検討会でいただいた主な意見や提案を集約すると下表のとおり。

図表番号 29 検討会の意見・提案(2回のまとめ)

検討会意見・提案内容	
存在意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長く愛される施設となるためには市民にこそ利用されるべき ・ お金に換算できない教育機関としての「価値」を重視すべき
入園者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園者数は他園と比較しても遜色なく十分活用されているといえる ・ 開園日や開園時間の見直しは検討の余地あり
動物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育員の日常業務が来園者には魅力となることを意識したガイドの充実が求められる ・ こども動物園は「他園にない強み」であり、充実が求められる
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生の興味を惹きつけ、自由研究につながるような展示手法が望まれる ・ ガイドの育成や教育部門の充実には専任職員が必要
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究成果の概要を来園者にも公表すべき
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芝生エリアの拡大が必要 ・ 来園者のニーズを意識したレストランのメニュー充実が求められる
遊園地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動物公園になくてはならない機能とは言い難い ・ 娯楽施設の魅力維持には多額な投資が必要 ・ 管理運営主体の再検討と遊園地以外の活用検討 ・ 遊園地廃園の影響を慎重に精査すべき
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け皿が見当たらない中、指定管理者制度導入は慎重になるべき ・ 指定管理者制度は、専門分野（飼育）を直営とするなど、部分的導入として検討 ・ 指定管理者制度導入の検討の際には飼育技術の継承に留意すべき ・ 退職者の活用による人件費の抑制 ・ 運営手法の検討についてメリット・デメリットを明確にすべき ・ 経費削減のみに着目し、本来機能を損なうことがあってはならない ・ レストラン・売店の業者選定においてプロポーザル形式を導入
収支	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客単価の向上に着目し、付帯サービスで収支改善を目指すべき ・ 60歳以上の無料化の再検討が必要 ・ サポーター制度や法人会員の強化により収入増を図る
都市公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災基地の機能を持たせ、避難場所とする（実現すれば日本初） ・ 市内に不足している、乳幼児の遊び場としての機能が望まれる ・ 健康づくりの視点から、シニアを中心に公園利用を促進すべき
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業との連携強化 ・ 市民参加による動物公園の整備 ・ 有償制度導入によるボランティア活動の継続促進
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア層に配慮した整備が必要（ベンチ、園内移動手段など）

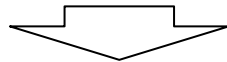
5 課題のまとめ

【動物園部分】

- 入園者数がピーク時に比べ減少傾向
- 一頭飼いの動物が多く、高齢化傾向
- 家畜の原種ゾーンの存在意義が希薄化
- 専門的研究・希少動物の繁殖実績が少ない
- 展示動物の魅力減・展示施設・内容・手法が陳腐化
- 売店・レストランの魅力不足
- 情報発信が不十分
- 人件費（人件費率）が高い

【遊園地部分】

- 入園者数の減少以上に遊戯施設利用者数が減少
- 遊戯施設は来園目的となっているとは言えない
- 陳腐化、旧態化した遊具は利用者の満足度は極めて低い
- 老朽化した施設は安全面から大規模な修繕が必要



【全体】

- 1 話題性の創出とリピーター確保のためには、動物展示魅力の向上と内容のリニューアルが必須
- 2 複数の動物が同時に高齢化しているゾーン（家畜の原種ゾーン）は、展示動物の入れ替えを検討する時期
- 3 動物の入れ替えに伴うゾーニングの見直しが必要
- 4 展示情報（ガイド）更新と飲食物販の強化が急務
- 5 遊園地の必要性の精査及び有効的な活用の検討

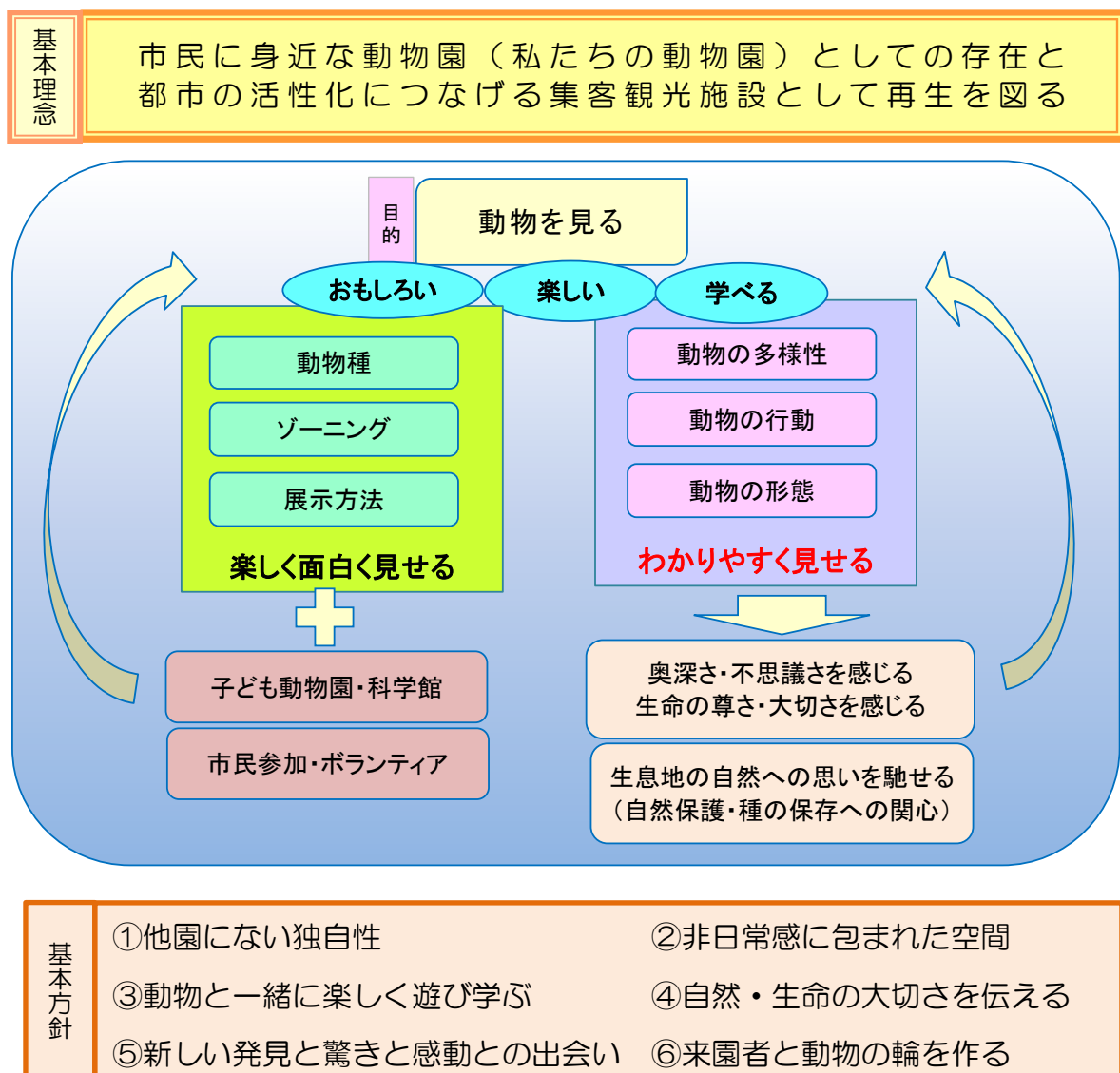
IV リスタート構想

1 目的

千葉市動物公園は、開園後4半世紀以上が経過し、施設の老朽化対応や展示手法等の刷新が喫緊の課題となっています。

「千葉市動物公園の在り方に関する基礎調査結果」を踏まえ、老朽化、陳腐化している動物展示施設や展示形態の改善に早急に着手し、来園者満足度の向上を図り、再び賑わいを取り戻すことで、今後も、市民にとって感動を味わうことのできる素晴らしい施設として継続運営していくことを目的として、「千葉市動物公園リスタート構想」を策定します。

【リスタート構想概念図】



2 基本理念

市民に身近な動物園（私たちの動物園）としての存在と、都市の活性化につなげる集客観光施設として再生を図る

千葉市動物公園は、就学前の子どもを連れた家族や、多くの児童・生徒が遠足等で訪れ、レジャーの場としてだけでなく、学習の場としても利用され、子どもたちの科学教育、情操教育で欠かせない存在となっています。また、市民アンケート調査でも「有益な施設」と評価されています。

動物園は、「野生動物が命をつないでいく」姿を見てもらう場所です。千葉市動物公園が、市の施設として今後も運営を継続し発展していくためには、多くの市民に利用される施設であることは大前提です。また、動物園には、果たすべき4つの役割があります。「種の保存」、「教育・環境教育」、「調査研究」、「レクリエーション」の4つの役割を果たし、地域に貢献することが最も重要です。そして、動物園としての存在意義をさらに高めるには、これらを通じて、動物を見る楽しみ、動物を知る楽しみを増やし、市民だけでなく、さらに広い地域からも千葉市動物公園に来ていただけるような動物園となることが重要です。

「市民に身近な動物園（私たちの動物園）」として、長く愛される施設となるため、市民が関わる仕組みを作り、市の施設としての存在意義を高めていくとともに、千葉市全体が活性化するよう、多くの来園者が訪れる施設を目指していきます。

3 基本方針

■他園にない独自性の追求

動物を「楽しく」「わかりやすく」見せる「特徴展示」により、独自性を追求します。

■非日常感に包まれた空間の演出

エントランスを通過した瞬間から、動物園の雰囲気をも高める演出を施すとともに、レストランや売店も含めた楽しい雰囲気づくりに取り組めます。

■動物と一緒に楽しく遊び、学ぶ

動物を見て、動物と一緒に遊ぶうちに、いろいろなことに気づき、自然に学べる仕掛けをたくさん用意し、「楽しさ倍増」を目指します。

■自然・生命の大切さを伝える

環境保全や種の保存活動など動物園の役割を果たすことを通じて、自然・生命の大切さを発信していきます。

■新しい発見と驚きと感動との出会い

来園するたびに、動物についての新しい発見や驚きがあり、動物に感動するような動物園を目指します。

■来園者と動物の輪をつくる

来園者が動物園の活動に参加できる仕組みを増やし、動物を身近に感じてもらうとともに、来園者によって支えられる参加型の動物園を目指します。

4 5つの取組目標

基本方針に基づき、動物公園が果たすべき「5つの取組目標」を掲げました。目標を達成するための施策を体系化し、「市民に身近な動物園」、また「都市の活性化につながる観光集客施設」に向かって構想を推進していきます。

目標1 特徴ある動物展示の実現

- 遊園地部分を含めた動物公園全体のゾーニングを見直します
- ゾーンごとに来園者にわかりやすいテーマを設定し、テーマに合わせて動物を再配置、新規導入します
- 動物の持つ特徴を引き出す展示手法である「特徴展示」を取り入れます

目標2 教育・普及活動の充実

- 教育方針を定め、子どもから大人までを対象とした指導体系を確立します
- 教育・普及活動の拠点となる施設を整備し、教育活動の効果を高めます
- 「指導者に対する教育」を強化します
- 教師・児童・生徒の学習を助けるプログラムを開発します

目標3 国際的動物園への脱皮

- 種の保存計画を策定します
- 絶滅危惧種の保存に協力します
- 各種協会への加盟により、国内、国外との連携を強化します
- 動物の飼育自体を研究テーマとして位置づけ、研究成果を発表します

目標4 集客力の向上

- 飼育員により動物公園の魅力を高めます
- 来園者の快適性を重視したサービス提供を実施します
- 親子三代を意識し、動物公園らしい集客方策を検討します

目標5 持続可能な運営体制の構築

- 集客力の向上につながるよう組織運営体制の見直しを検討します
- 収支の改善に向けた取組みを推進します
- 市民や企業の協力を得ながら運営していく仕組みを作ります
- 環境にやさしい取組みにより環境保全に関するメッセージを発信します

5 構想期間

(1) 施策推進の考え方

本構想の期間は、施設の耐用年数を考慮し、また、開園50周年に向けた長期構想とします。

当面は「重点取組期間（第1期）」とし、リニューアルに際して、最も象徴的な取組みについて早期に実現させるべく、施策・事業を計画的に推進していきます。また、施策の実施にあたっては、市の実施計画をはじめとする他の計画行政や財政状況を鑑みながら計画を推進するとともに、推進体制を強化することで実効性を確保していきます。

その後の構想の見直しについては、社会情勢や経済動向を勘案するとともに、総合計画等の上位計画や、市のマニフェストに関する取組み事業スケジュールを踏まえながら、適宜実施していきます。

入園者数の目標は、最終的に100万人を目指すこととします。

- 子どもゾーンは、千葉市動物公園の特徴を最も表現し、集客の要であることから、他に優先して整備に着手します。
- 入り口については、来園者をお迎えするための動物配置（ウェルカム動物）を先行して実施します。
- 平原ゾーンでは、猛獣の導入を最優先で進めます。
- 森林ゾーンでは、科学館の展示内容の更新とオランウータン等の空中展示の整備を優先します。
- 湿原ゾーンでは、ビーバー等の動物舎を移転しながら、将来的には水路を整備していきます。

整備スケジュール（目安）

区 分	第 1 期	第 2 期	第 3 期
子どもゾーン			
バドック・休憩施設整備	■		
遊園地取り壊し	■		
ビジターセンター整備	■	■	
森林ゾーンへの経路整備	■	■	
森林ゾーン			
科学館の展示改善	■		
森林ゾーン(現サル舎)整備			■
ゴリラとアフリカの動物配置	■	■	
森林ゾーン(現子ども)整備	■	■	
森林ゾーン(現家畜原種ゾーン南側)整備		■	■
オランウータン空中展示		■	
ゾウ舎			■
動物科学館			■
平原ゾーン			
家畜の原種ゾーン撤去・移動		■	
猛獣導入		■	
平原ゾーン(アフリカの動物)整備		■	
平原ゾーン(アメリカの動物)整備			■
展望デッキ・築山 改修		■	
湿原ゾーン			
ビーバー舎		■	
水路整備(カワウソ含む)			■
バク舎整備			■
フライングケージ(鳥類)整備			■
入口			
正門ウェルカム動物	■		
西門ウェルカム動物	■		
北門ウェルカム動物		■	
全体			
サイン整備	■		
大池散策路整備		■	■

(2) 重点取組の設定

動物公園リニューアルに際して、最も象徴的な取組みについて早期に実現させるため、「重点取組」に位置づけて集中的に取り組めます。

特に、遊園地エリアを「子どもたちの夢の空間」として再生することに重点を置き、リスタート構想の目標である「身近な動物園」に近づけていくとともに、子どもたちに対する教育的な施策を早期に充実していきます。

【重点取組】

1 肉食獣の導入

本園がリスタートするにあたり、来園者からの要望が高く、これまで配置していなかった肉食獣（ライオンなど）を新たに導入します。

2 ウェルカム動物の配置

来園者をお迎えする正門、西門、北門付近に「ウェルカム動物」を配置し、エントランスから動物展示までの距離を縮め、動物園らしさを全面に出していきます。

3 モノレールからの存在感アップ

千葉都市モノレールの車窓から動物園の様子がわかるように、動物や施設の再配置を実施するとともに、本園と直結する動物公園駅から動物園の雰囲気づくりに取組み、誘客につなげます。

4 お客様目線でのおもてなし

「また来よう」と思ってもらえるよう、おもてなしの心を持って、千葉市の集客施設としてふさわしい接客を心がけます。

5 動物ワールドの創出

動物の展示だけでなく、動物にかかわる様々な情報を集め、発信するとともに、地域の学校や各種団体、市民の協力を得て、動物に関係するイベント、展示を積極的に実施します。

6 「種の保存」に世界レベルで貢献

種の保存計画を策定するとともに、絶滅危惧種繁殖のため、国内外との連携を強化し、国内、園内での繁殖に貢献します。

【施策体系図】



目標 1 特徴ある動物展示の実現

1 動物の配置

(1) ゾーン計画

- ゾーンについては、生息環境・地域・テーマを設定し直した上で再編し、テーマに合わせて動物を配置し、動物を「楽しく」「わかりやすく」見せる「特徴展示」により独自性を追求するとともに、動物たちと来園者の距離を近づける工夫するなど、非日常感にあふれた空間の演出をしていきます。
- 施設整備については、現在ある施設を出来るだけ活用しながら、建物の耐用年数等を考慮した上で、必要に応じて改修、改築、新築を行い、有効利用していきます。

これまで、7つのゾーンでテーマに基づいた動物展示を実施していましたが、動物の高齢化による一頭飼い動物の増加や、入手が困難になった動物種の増加により、ゾーンのテーマ性を維持していくことが難しい状況となっています。

そのため、「生息環境」と「地域」を組み合わせたテーマで、園内を4つのゾーンに分け、わかりやすいゾーンに再整備します。

遊園地部分を含めた動物公園全体を再編し、それぞれのゾーンのテーマに沿った動物を再配置します。

施設整備において、動物科学館は、子どもから大人までを対象とした学習施設「なんでも動物館」として、展示内容を見直します。

さらに、子どもゾーンには、学校等の団体を対象とした「ビジターセンター」を新設し、児童・生徒に対する指導のほか、指導者に対する指導を実施する機能を持たせます。

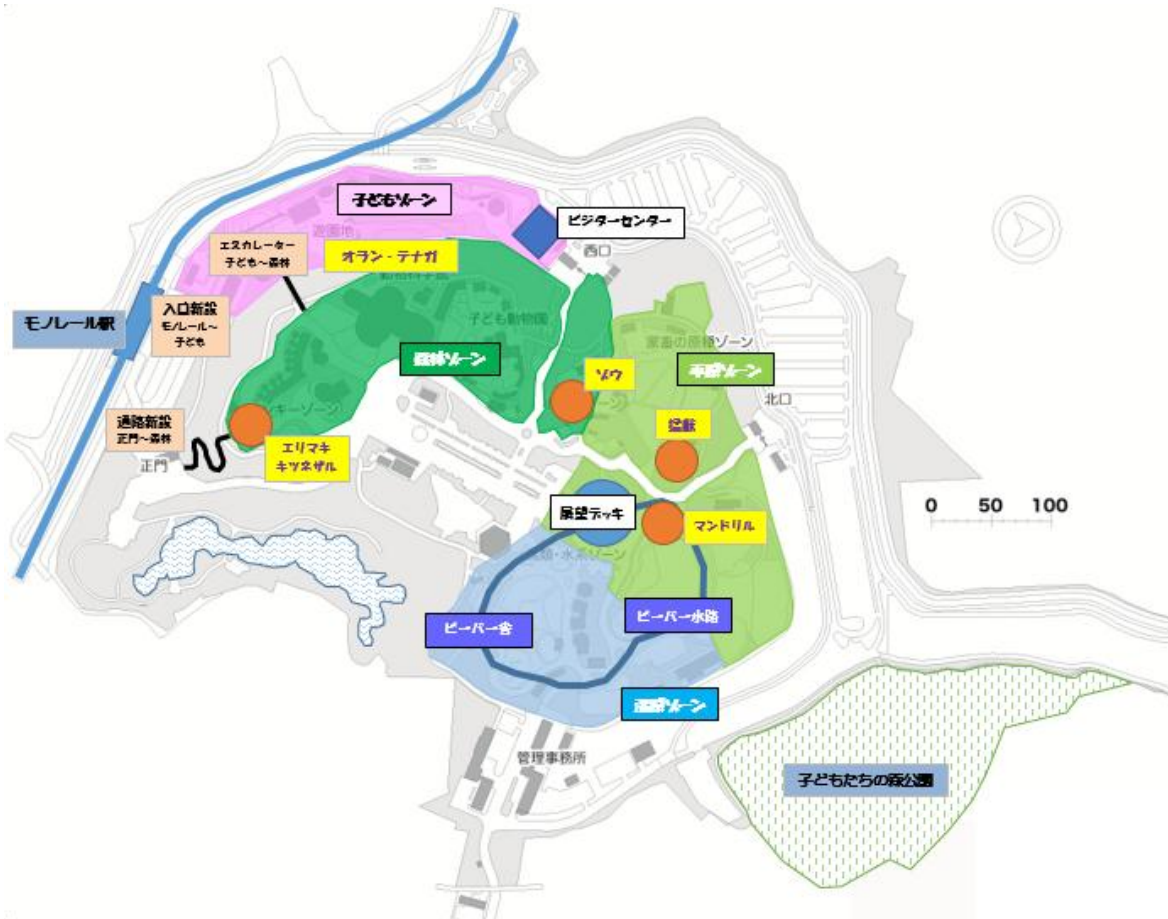
図表番号 30 ゾーンの再編

旧ゾーン	環境	地域・テーマ	配置する動物
モンキーゾーン	森林ゾーン なんでも動物館	アジア アフリカ アメリカ	オランウータン アルマジロ ナマケモノ など
動物科学館			
子ども動物園	草原ゾーン	アジア アフリカ アメリカ	ライオン モウコノウマ キリン など
小動物ゾーン			
家畜の原種ゾーン	湿地帯ゾーン	水と空	ビーバー マレーバク ヘビクイワシ など
草原ゾーン			
鳥類・水系ゾーン	子どもゾーン ビジターセンター	ふれあい体験	ポニー ヤギ テンジクネズミ など
遊園地			

【現ゾーニング】



【完成予想図】



(2) 国際的な動向を踏まえた動物配置

4ゾーンのテーマに合わせて、現在飼育している動物の再配置を行うとともに、展示目的を踏まえて動物の入れ替えを行います。

特に、国際的に絶滅が危惧されている動物種を積極的に受け入れ、野生への貢献を果たします。

2 施設整備

(1) 施設整備の考え方

現在ある施設は、動物舎も含めて耐用年数まで利用することを前提に改修、活用していきます。また、すべての施設が20年後にはほぼ同時に耐用年数に達することから、それに合わせた施設整備計画を策定し、計画的に見直し、廃止、建替え等を検討していきます。

中水施設については、これまで定期的にメンテナンスを実施して来ていますが、維持管理に高額な費用がかかり、動物公園全体のコストに大きな影響を与えています。

また、一度に処理できる能力に限界があるため、利用に制限がかかり、運営上に支障をきたしていることから、今後は長期的な視点に立ち、効率的で経済的な管理運営の観点から、中水施設の維持管理や利用方法について検討していきます。

(2) 環境に配慮した整備

新たに設置する施設については、省エネルギーの設計にするとともに、環境教育への利用を視野に入れた自然エネルギーに対応した機能を積極的に取り入れ、環境にやさしい動物園を目指します。

水力、風力、太陽光など自然エネルギーシステムを導入するとともに、環境教育の教材として活用していきます。

また、動物の糞や園内で集められた落ち葉などを堆肥へ活用するとともに、その利用者を積極的に発掘し、資源循環に努めます。

(3) トータルサイン計画の策定

テーマ別のゾーン再編に合わせて、トータルサイン計画を策定し、来園者にとって分かりやすく、統一感のあるサインに見直していきます。

また、来園者の目的に合わせて広い園内を楽しく回れるよう、わかりやすく表示します。

(4) 動線の考え方

安全・安心で、かつ目的地へ最短距離で移動できる、優しく快適な移動動線を再整備します。

各エントランスから動物展示ゾーンへのモデルルートを複数用意し、来園者に提案していきます。また、正門から動物展示エリアまでの園路が長く傾斜していることを改善するため、正門から森林エリアへの近道の整備を進めていきます。

また、低地である子どもゾーンから台地の上にある動物展示エリアまでの移動負担を軽減するような移動手段の設置を検討します。

3 わかりやすいゾーン

(1) 森林ゾーン（アジア、アフリカ、アメリカの動物）

1) 展示内容

- アジアやアフリカ、アメリカの森林に生息する動物を展示します。
- 食性や行動の違いを観察できるような仕掛けを作ります。
- 植栽等の配置で森林の中で動物を観察するような疑似体験を可能にします。
- 木の上で生活する動物と、地面の上で生活する動物を同時に展示する「複合展示」を実施します。

2) 展示イメージ

オランウータンとテナガザルが、来園者の通路の上を空中散歩し、木の上を移動する様子を観察できる。

ゴリラは群れで悠々と生活している。比較舎のサルたちは「ケージ」を感じない、ガラス等の透明素材越しや、オープン展示のピット式で、その種の生息環境（樹上、地上）にあわせた展示場にいる姿を見ることができる。

樹上性のオマキザルやナマケモノが、木から木へと移動する姿や、樹上での活動が一目で見られるように、樹上性はより高くし、また地上性のアルマジロやアリクイは展示場をより広く設け、動き回る様子が観察できる。

【オラン・テナガの空中散歩】



(2) 平原ゾーン（アジア、アフリカ、アメリカの動物）

1) 展示内容

- アジアやアフリカ、アメリカの平原に生息する動物を展示します。
- 草原ではキリンや他の草食獣、鳥類との混合展示を行います。
- 草食動物とそれを捕食する肉食動物を展示しアフリカの生態風景を再現します。
- モウコノウマなど絶滅危惧種の繁殖に積極的に取り組みます。

2) 展示イメージ

猛獣を間近で観察でき、ライオンやチーター等とのパノラマ展示でアフリカの平原を再現する。

また、草原では広々とした草原の中で、キリンやオリックスの混合展示をし、群れている姿を展示することで、活動的な賑わいを味わう。

また、ダチョウ、シタツンガ、草原にすむ動物などを混合展示し、アフリカの草原を再現していく。

アジア草原ではモウコノウマがたたずんでいる。

動物を俯瞰したり、見上げたり色々な角度から動物を観察できるようになっており、大きさや生態を間近に体感することができる。

【猛獣の導入（ライオン）】



(3) 子どもゾーン

1) 展示内容

- 遊園地跡地に配置し、モノレールから動物園の楽しさが感じられるよう工夫します。
- ポニーの乗馬など、人間と動物がともに楽しめる場を設けます。
- 新たに「ビジターセンター」を設置し、学校等の団体の受け入れの場や学習・教育活動の拠点として活用します。
- 子どもたちが小動物に直接触れる場を常設し、「命の大切さ」や癒しを伝えます。
- 人間とかかわりの深い家畜を展示し、総合学習や環境教育のきっかけを提示します。
- 遠足等の団体客の休憩所としてパーゴラなどの大規模休憩施設を設置します。
- 子どもたちが暑いさなかでも楽しく遊べる場所として「ジャブジャブ池」を設置します。

2) 展示イメージ

子どもたちが興味のある動物の側へ近づき触れ合うことができる。

世話のできる家畜類の中では、家族や仲間たちと一緒に子どもたちが楽しんでいる。テンジクネズミやマウスなどの小動物を職員の説明を聞きながら初めて触り、からだの温もりや動きを命として感じ、目を輝かせている。

また、ポニーの乗馬により、動物への親近感を誘発させ子どもたちが歓声を上げながら楽しんでいる。家族や遠足で来た子どもたちが、小動物に直接触れることで、温もりや匂いも含め、命の大切さを感じ、学ぶことで、思いやりの心を育むきっかけの場となっている。

【ポニー乗馬】



(4) 湿原ゾーン

1) 展示内容

- 水辺の動物や空中を飛ぶ動物を展示します。
- 空中を飛ぶ動物については、ケージの拡充等により、大型の鳥類が飛翔する様子などが観察できるよう、展示手法を改善します。
- 水辺の動物については、ビーバーのダムづくりの様子など、水辺で生活する様子が観察できる仕掛けを設置します。
- 動物らしい行動を促す環境を再現し、来園者と動物がより一体感を保ち、目の前で動物を見ることができるよう展示方法を改善していきます。

2) 展示イメージ

ビーバーは、園路をめぐる水路の一部でダムを作り、その様子を観察できる。水路の途中には水力発電をする水車が設置されている。

大きな樹木と旧水禽池、芝生広場の一部をネットで覆った大型フライングケージのなかで、多種多様な鳥たちが自由に飛翔し、自然に近い展示の中で営巣している。ウォークスルーの展示場内では、鳥たちが巣作りや子育てをする姿など、多様な生活を間近で見ることができる。

ツル類や猛禽は、各展示を比較できるようにサインが充実しており、ハシビロコウも放飼場を拡充したことで飛ぶ姿を見ることが出来る。

開放的な水槽でペンギンが泳ぎ回っている。その姿を上から覗き込むだけでなく、水槽の窓から観察したり、下から見上げ空を飛ぶように泳ぐ姿を見ることができるよう、非日常感を得ることができる。

【ビーバーと水路・水車】



(5) 大池ゾーン

1) 展示内容

- 大池全体を大型のビオトープとして位置づけ、野鳥だけでなく、生物多様性や生態系を観察し、体験することができる、自然溢れるエリアとして活用します。
- 山野草等の植栽、昆虫飼育等を付加し、豊かな里山を再現していきます。
- 野鳥の観察など、季節の変化を楽しめる場としてPRし、散策を整備することで、新たな来園者の獲得につなげていきます。

【大池の四季】



4 展示方法

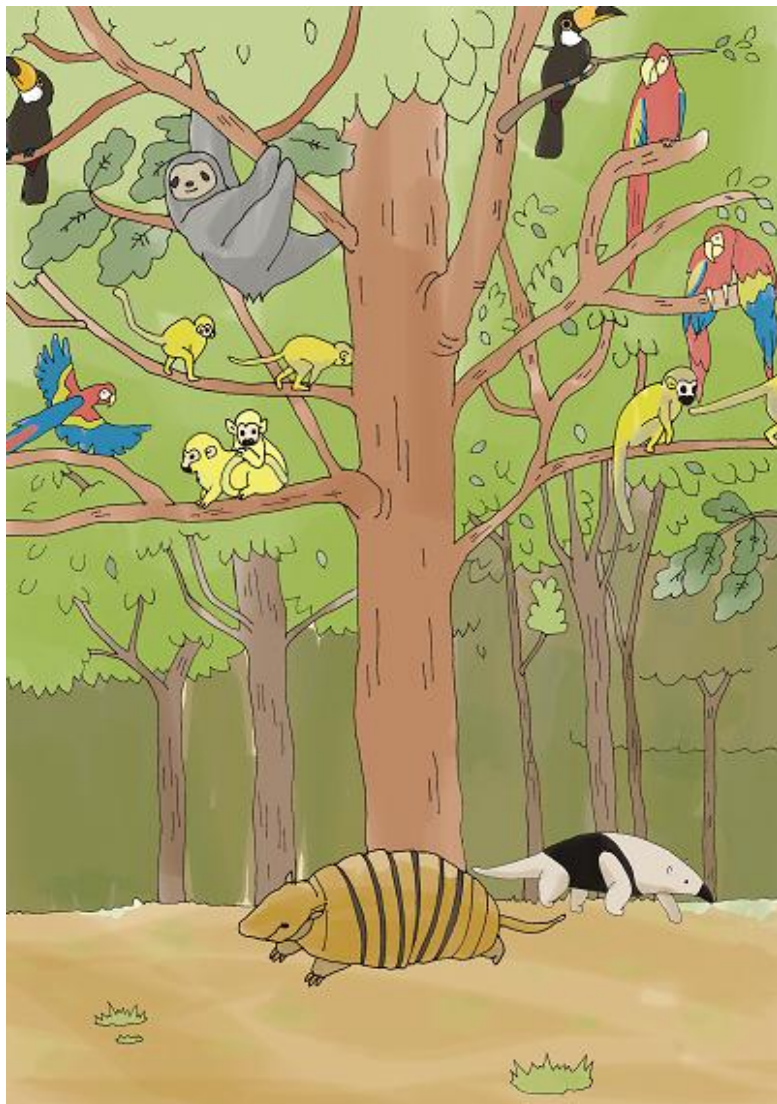
(1) 特徴展示の実施

動物展示においては、種の生態や行動、生息などの特徴がわかり易い展示である「特徴展示」の手法を取り入れます。また、動物を見て「楽しい」「面白い」と感じられるよう、動物の特徴を引き出す展示手法を取り入れます。

(2) 複合展示の実施

同じ地域・環境に生息する動物を同時に見せる「複合展示」の手法を取り入れます。具体的には、地上で生活する動物と、木の上で生活する動物が同時に観察できるような展示や、本来同じ生息地で生活している動物を同じ放飼場で飼育することで、生息地を再現していきます。

【上下を利用した展示 南米】



(3) 展示動物の選択と繁殖

現在飼育している動物については、単に種類を増やすのではなく、テーマや展示目的に合わせて整理・統合していきます。また、動物園の役割である「種の保存」に貢献するため、国際的な交流を活性化し、世界的に希少な動物の繁殖に協力することで、社会的役割を果たすことを強く意識していきます。

動物展示については「展示収集計画」を策定し、計画的に配置していきます。

【ナマケモノの人工飼育】



(4) 自然的素材を生かした展示

園全体の都市公園の雰囲気を生かしながら、人工的建造物が出来るだけ見えないような展示を心がけ、樹木や岩など自然的素材を生かした、美しく楽しい展示としていきます。

【自然的素材を生かした展示】



(5) 環境エンリッチメントの追求

動物舎の施設の改築・新設に合わせて、動物たちの居住・生活環境を豊かにする「環境エンリッチメント」の考え方にに基づき、遊び道具や野生下でみられる行動が再現できるセッティングなど、工夫を凝らした動物の暮らしやすい環境づくりを進めていきます。

【消防ホースの再利用によるフクロテナガザルの展示場セッティング】



(6) 展示の持続的な改善

野生動物への知見は日進月歩であり、常に動物の生態や行動への評価は進歩していることから、こうした動きに対応して、展示方法や展示内容を常に改善していきます。

改善は定期的に実施し、展示内容の陳腐化を防止するとともに、生活環境に変化をつけるなど新たな視点での展示手法の開発に努めます。

また、爬虫類や両生類、昆虫などの飼育及び展示についても検討を進めます。

目標 2 教育・普及活動の充実

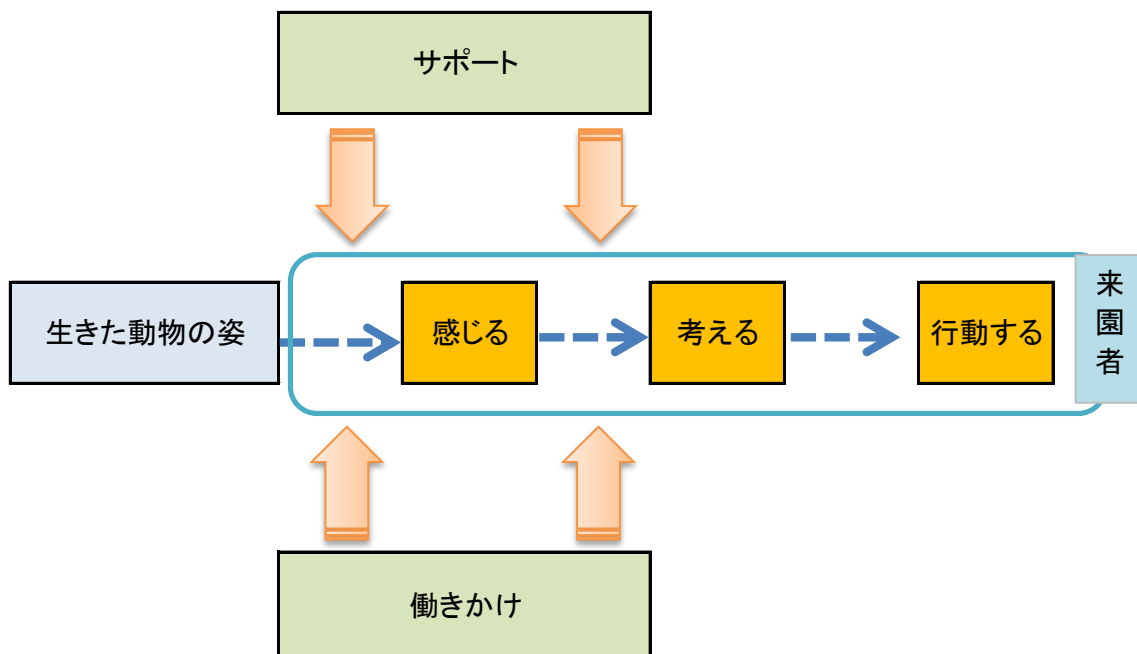
1 教育方針

(1) 「動物を見て、自分で考え、発見し、行動する」

動物園にしかできないことは、「生きた動物を見せること」です。しかし、単に「見せる」だけでなく、職員の働きかけにより、生命や自然環境について「感じる」「考える」そして、「行動する」きっかけをあたえるような働きかけを行っていきます。

「動物を見て、自分で考え、発見し、行動する」ことへ導くため、「誰のために、何を伝えるのか」を設定し、対象者やテーマを明らかにした教育プログラムを開発、提供していきます。

【教育方針 概念図】



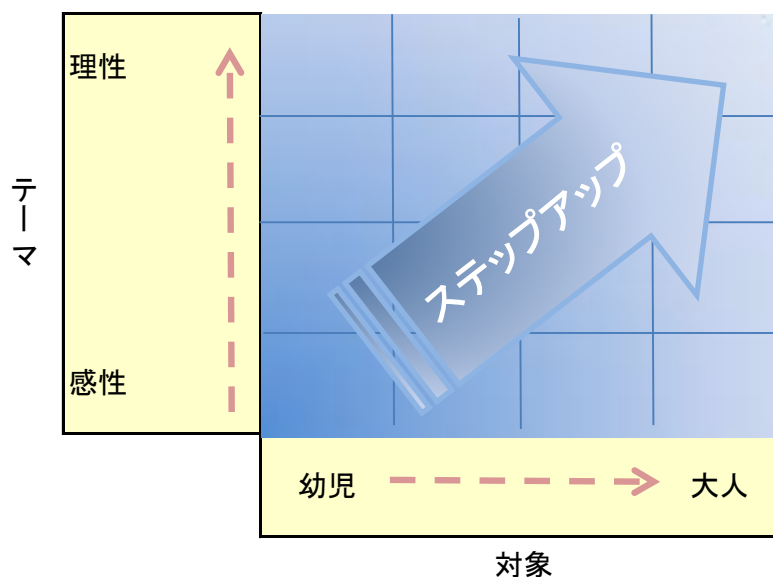
(2) 指導体系の確立

動物公園には、就学前の乳幼児から、高齢者まで、幅広い年代が来園し、また、来園する目的も様々です。

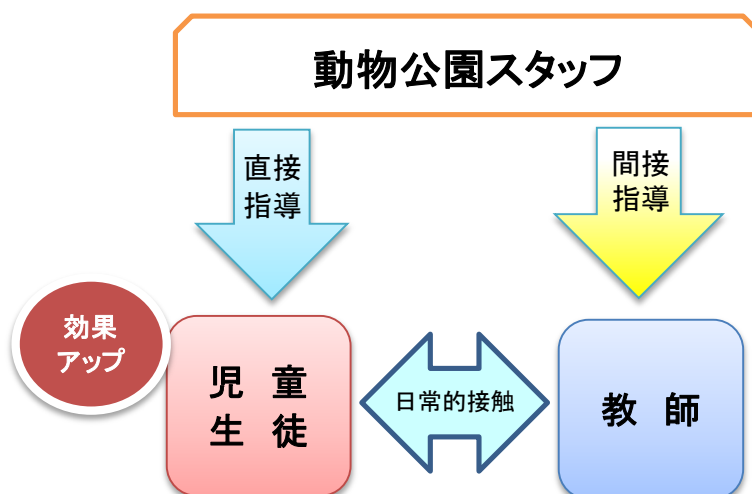
来園者の年代や学習ニーズに合わせたプログラムを段階的に開発し、来園者がステップアップを実感できるような指導体系を確立していきます。

さらに、児童・生徒に対する働きかけ（直接指導）だけでなく、教師、ボランティアなど、指導的役割を果たす者に対する働きかけ（間接指導）の導入により、より効果的な学習・指導体制の充実に取組みます。

【段階的プログラム】



【直接指導と間接指導】



2 教育・普及拠点の整備

(1) 新たな機能の充実

遊園地後に整備する子どもゾーンにおいて、ビジターセンターを新設し、学習・教育・案内拠点として活用します。西門に近い場所に設置し、児童・生徒などの団体客の受け入れや、教員向け指導の場、教育スタッフの活動拠点に位置づけます。

館内には、レクチャールームや図書室、研究室などを配置し、来園者に対する案内や、学びを促進する環境学習サポートスペース、相談コーナーだけでなく、様々な教育活動を担うボランティアスタッフの方々の専用ルーム、外部の環境保全団体などが活用できるイベントスペースなどを確保し、市民参画を前提とした動物園ならではの環境教育拠点施設を構築します。

また、動物との関わりを通しての命の大切さや儚さに対する教育を充実させるとともに、慰霊碑の一般開放や慰霊祭の開催により「いのちの博物館」としての機能を補完拡充します。

(2) 既存施設の活用と展示内容の刷新

動物科学館の展示内容が一部古くなっているため、固定展示等の見直し等により、展示内容を刷新していきます。

また、子どもから大人まで広く対応できる展示内容とし、「動物絵本コーナー」「動物に関わる音楽コーナー」の設置や、動物に係る絵画や工作などのイベントを開催するなど、動物のことなら何でも分かる「なんでも動物館」を目指します。

3 教育・普及プログラムの充実

(1) 学校との連携強化

総合的な学習の場だけに限らず、各学校の学年別、教科別における動物の関わり方に合わせたプログラムを開発し、「調べ学習」「体験学習」などを通じて、動物園だからこそできる学習機能を強化していきます。また、そのプログラムを通じて、個々の児童・生徒が自ら何かを発見し、探求しようとする行動につなげていくなど、動物園を通じた学習を支援します。

さらに、学校と動物公園とがともに授業を作る環境づくりに取り組めます。

【学年別教科・テーマ例】

	幼稚園	小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	大人
教科 テーマ	命の 大切さ	生活科	職場体験 環境教育		職場体験 環境教育	生涯学習
		総合的な学習の時間				
	飼育・ 栽培活動	動物の飼育 植物の栽培	身体的 メカニズム 自然環境	自然科学 自然科学	自然科学	

(2) 地域との交流

「動物」という共通のテーマで美術館や博物館などと連携し、学習のきっかけを与えるようなイベントや展示を実施することで、周辺地域との交流を活性化していきます。

【3 館連携プログラム ちばジカプロジェクト】



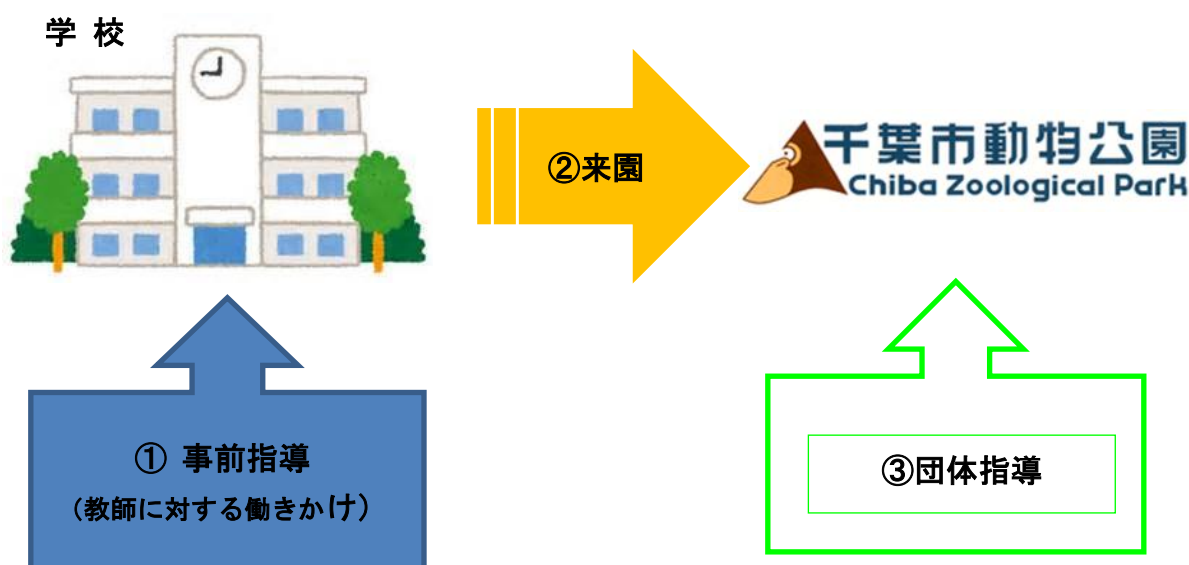
(3) 教育支援プログラムの充実

児童・生徒を指導する立場にある人に対して適切に指導することは、子どもたちに対する教育効果を高める効果が期待できます。学校の教員に対する教育プログラムを充実し、児童・生徒や来園者の学習効果をさらに高めていきます。

また、学校に対する学習の効果を高めるため、事前指導を強化し、学習に広がりを持たせる取組みを強化します。

ガイドボランティアについては、常にレベルアップを図れるよう研修体制を整備します。

【事前指導を経た団体指導】



(4) 来園者向けプログラムの充実

来園者の中心である子どもとその母親や祖父母など三世代を視野に入れ、「大人も楽しめる動物園」として、幅広い層に対する教育プログラムを開発します。特に21世紀は生涯学習時代といわれる中で、大人にターゲットを絞った学習プログラムの開発は急務であり、自然環境保全をはじめとする「持続可能な開発のための教育 (ESD 教育)」にも力を入れていきます。

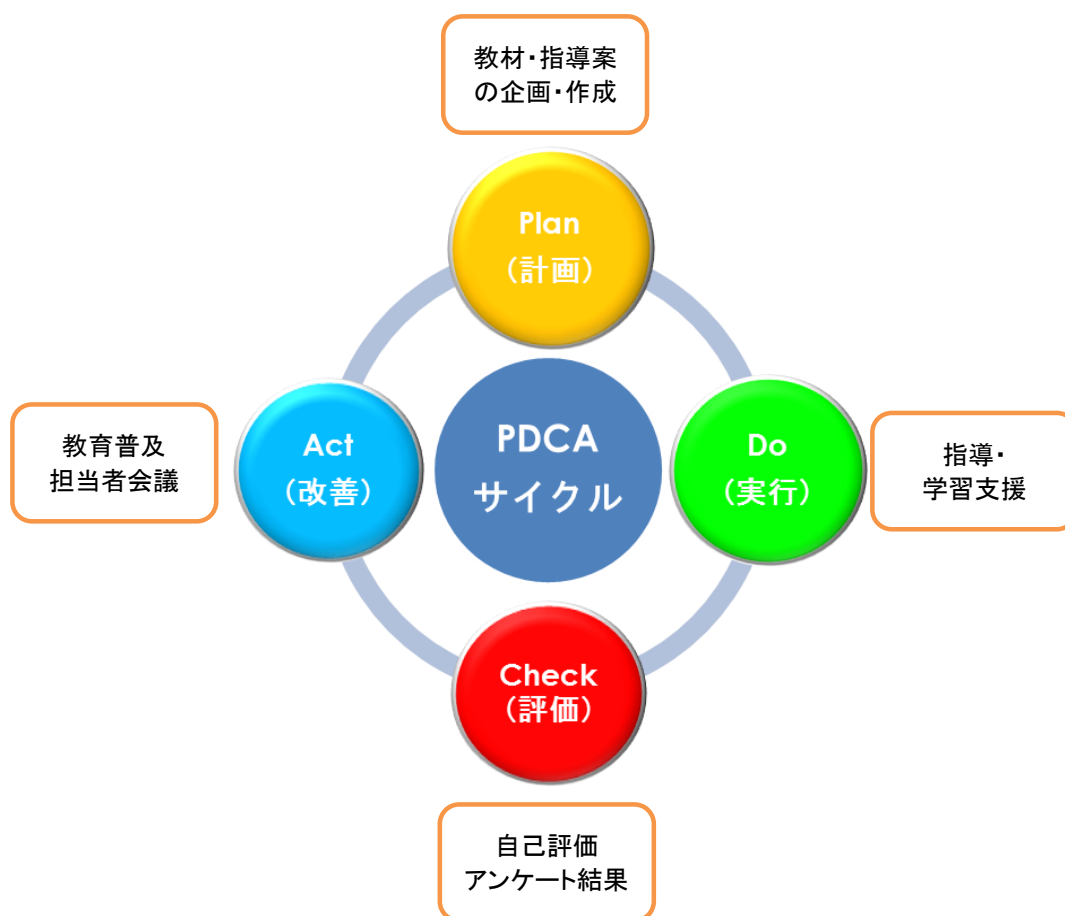
【大人の飼育体験】



(5) 教育プログラムの評価

教育プログラムについては、参加者アンケート等の実施により定期的に評価を行い、改善を図っていきます。また、学習プログラム開発においては、連携する諸団体（学校、博物館等）と定期的に検討会を実施し、健全なPDCAサイクルに基づき、プログラムの発展に努めます。

【PDCA サイクル】



目標3 国際的動物園への脱皮

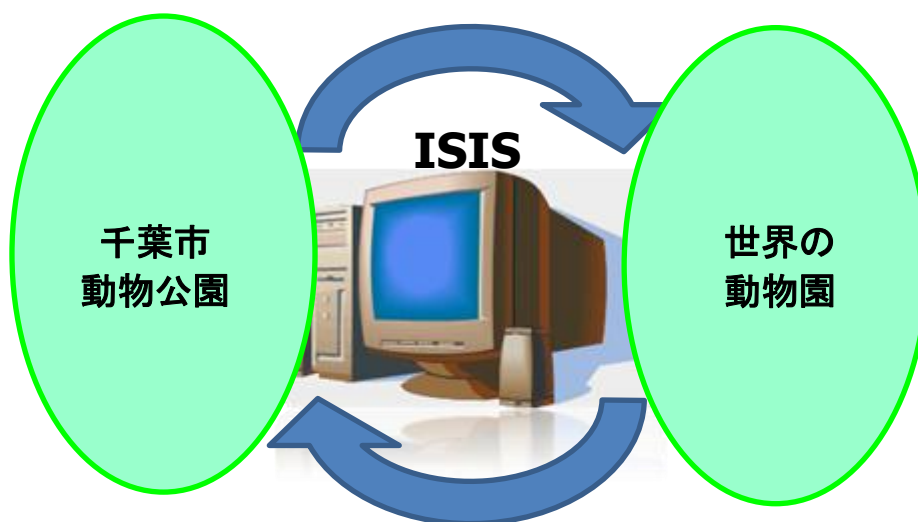
1 種の保存

(1) 種の保存計画の策定

種の保存は、動物園の4つの目的の一つと位置づけられています（日本動物園水族館協会 <http://www.jaza.jp/about.html>）。国際種情報システム（ISIS）へ加入し、国内外の動物園との動物の交換や、繁殖のためのブリーディングローンを実施し、絶滅危惧種の繁殖に取り組めます。また、種の保存計画を策定し、計画に基づき、園内外の繁殖に貢献していきます。

さらに、大学等の研究機関や保全団体との連携を深め、協力体制を整備します。

【国際的な情報ネットワークの強化】

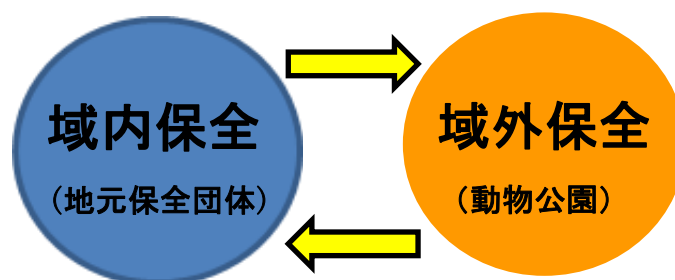


(2) 生息地における種の保存

千葉県で生息するコアジサシは、千葉県レッドデータブックで最重要保護生物（A）に指定されており、絶滅が危惧されています。地元の保全団体等との協力体制のもと、園内繁殖に努め、将来的には放鳥を目指すことにより、地域の自然の再生に貢献します。

また、モウコノウマの繁殖など国際的な野生復帰計画にも参画していきます。

【協力体制】



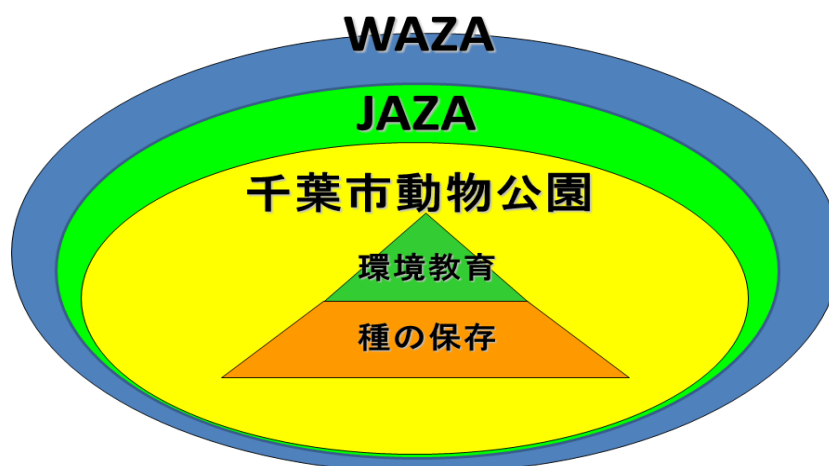
(3) 世界動物園水族館協会への加盟

絶滅の恐れのある希少動物の持続可能な形での繁殖ならびに種の保存を進めるためには、国際的な協力が不可欠です。そこで、世界動物園水族館協会（WAZA）に加盟し、飼育下動物の情報を瞬時に世界中の動物園と共有できる体制を整えます。

持続可能な形での繁殖を目指すには、国内の動物園同士の移動だけでは限界があり（例えば、ゴリラやゾウ）、WAZA や ISIS に加盟することにより、世界各国の動物園の当園に対する信頼を高め、諸外国の動物園からの動物の搬入・搬出を活発化していきます。

また、種の保存の取組みを来園者に積極的に発信し、種の保存に関する教育活動の充実にもつなげていきます。

【WAZAへの加盟・参画】



(4) 日本動物園水族館協会事業への参加

公益社団法人日本動物園水族館協会の生物多様性委員会が血統登録種として定める約150種のうち、当園で現在飼育している35種（ニシゴリラ、マレーバク、グレビーシマウマ、シセンレッサーパンダ、コツメカワウソ、フンボルトペンギンなど）をはじめとして、繁殖保存に取り組んでいきます。このうち、ピグミーマーモセットとワタボウシパンシェは当園が種別調整担当園となっていることから、繁殖について特に強化していきます。さらに、野生下絶滅種となっており、現在野生復帰が進められているモウコノウマや日本の特別天然記念物であるニホンカモシカ、また、絶滅危惧種についても新たな取り組みを開始します。

【モウコノウマ】



(5) 動物園内における種の保存

現在飼育している希少動物の繁殖に努め、他園とも協力して種の保存と持続可能な繁殖に努めます。また、交尾時期を的確に把握するため、血中あるいは糞中性ステロイドホルモンの測定や、人工授精のための精子や卵子の冷凍保存などを、研究機関と協力して取り組む体制を整えます。

【シロオリックスの赤ちゃん】



【コツメカワウソの赤ちゃん】



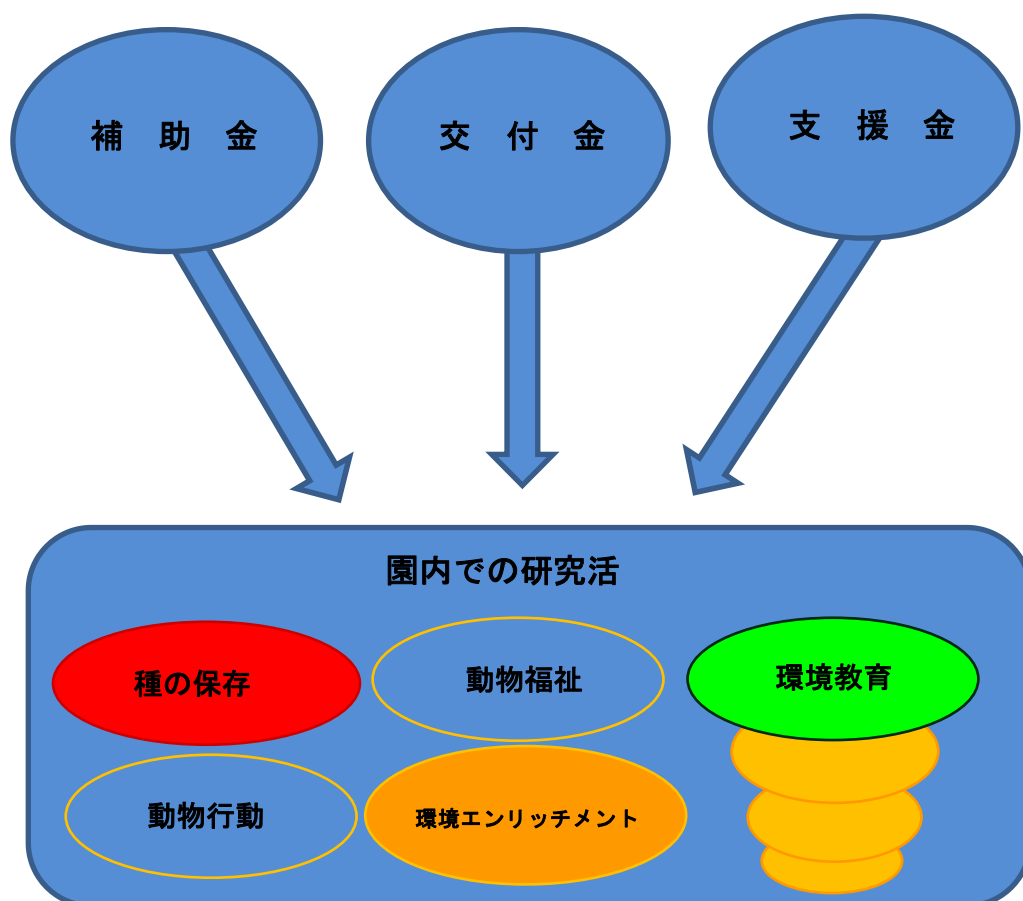
2 調査研究

(1) 園内での研究活動

種の保存に関する研究をはじめ、園内で行う研究においては、補助金、交付金、支援金等を積極的に活用し、研究を行う上での財源を確保します。研究補助金等を申請し採択されることは、当園の学術機能を向上するうえでも大きな推進力となるだけでなく、研究機関としての位置付けを広く一般にアピールする機会ともなります。そこで、こうした「採択事業」を積極的に広くアピールし、博物館相当施設としての位置付けを高めていきます。

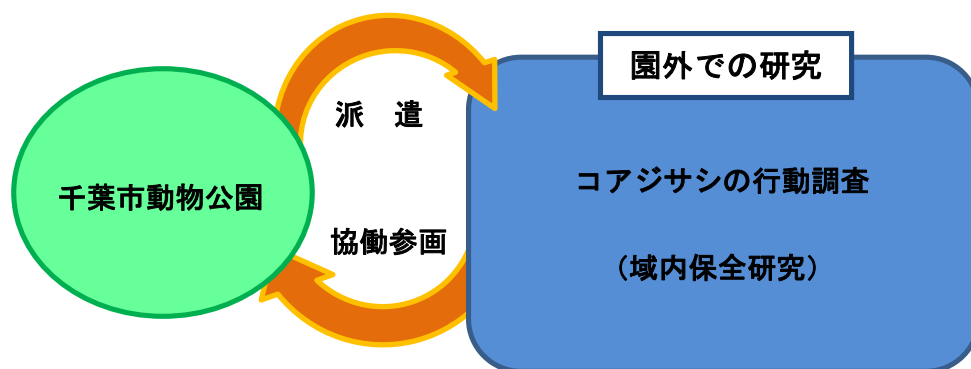
また、飼育動物は市民にとっての財産であり、その誕生から死亡に至るすべての飼育環境をとらえた研究を行うことが求められます。命題である種の保存研究はもとより、動物福祉、環境エンリッチメント、動物行動学、正の強化に基づく動物トレーニング、環境教育等、動物園としての様々な応用研究を積極的に推し進めていきます。

【財源確保による園内研究の推進】



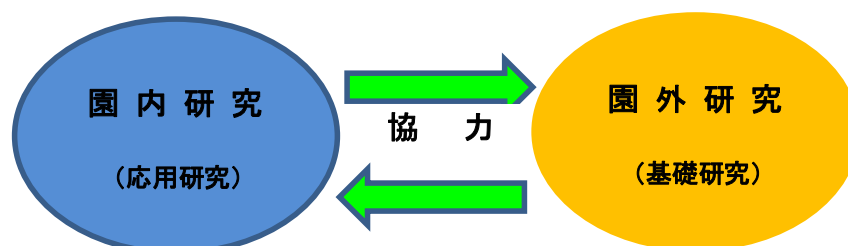
(2) 園外での研究活動

園内での研究活動だけでなく、動物園は地域の自然環境保全にも積極的にかかわっていくことが求められます。地域の絶滅危惧種であるコアジサシの調査研究等、職員自身が園外での諸研究に積極的にかかわっていくことのできる環境を整えます。また、地元自然保護団体等の協力により、協働参画による域内保全研究も推進していきます。



(3) 大学・研究機関等との共同研究の実施

他園館、学術機関、教育機関等との共同研究を推進し、当園のみでは成し得ない成果を達成します。この成果をもとに当園の学術分野の向上を図り、研究機関としての礎を築きます。また、飼育している希少動物は外部機関にとっても貴重な研究対象となります。そこで、外部機関の研究に対し、積極的に協働参画し、その成果を共に享受していきます。また、外部機関が当園の希少動物を対象とした基礎研究を行う上で、情報提供を図り、研究をしやすい環境づくりやサポート体制を確立します。



(4) 研究成果の発表

調査研究の結果は、公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)が実施する技術者研究会で報告することはもちろん、日本霊長類学会、ヒトと動物の関係学会、日本環境教育学会、全日本博物館学会等、各職員が所属している専門学術団体でも積極的に情報発信をしていきます。

また、日本国内のみならず、広く海外で行われている研究会(国際飼育係会議(ICZ)、国際動物園教育担当者会議(IZE)、アジア地域動物園教育担当者会議(AZEC)、国際動物トレーニング会議、国際環境エンリッチメント会議等)にも積極的に参加し、成果を発表します。特に重要な成果においては、世界動物園水族館協会(WAZA)で報告します。

目標4 集客力の向上

1 ホスピタリティの充実

(1) 飼育員による魅力づくり

飼育員は、最も動物の近くにおいて動物のことを一番よく知っています。飼育員だけが、動物の特徴を来園者に伝えることができます。飼育を通して得た経験を来園者に伝えることが、動物園の魅力をもっと高めることができます。いわば、飼育員は「来園者と動物のコーディネーター」または「動物や自然界からのメッセンジャー」と位置づけられます。

飼育員の行う「動物ガイド」は来園者に大変人気があります。それは、飼育員が毎日動物と接する中で、担当飼育員しか知らない個体の特徴を、動物種としてではなく、「千葉市動物公園の〇〇」として語るからです。

このような、動物としての特徴だけでなく個体としての解説は、より来園者に対し動物への親近感や愛着心を高めるとともに、動物や動物公園に対して関心を高めることにつながります。飼育員が来園者に、より身近な存在となり、動物について楽しく、面白く解説できるよう、飼育員の研修を充実し、「飼育員による魅力づくり」を推進します。

- 飼育員の飼育スキル向上のための研修を充実し、動物ガイド等の動物の魅力発信に活かしていきます。
- 飼育員による動物公園の魅力発信の機会を拡大し、動物に関する情報提供を強化していきます。

【飼育員によるゾウの餌やりガイド】



(2) ICTの活用による交流と情報発信

ICT 技術は急速に高まり、また利用範囲や利用者も拡大しています。携帯電話やタブレット端末の急速な普及により、ICT 技術は若い世代を中心にますます身近なものとなっています。

千葉県動物公園のホームページは、千葉県において最もアクセス件数が高くなっており、これから来園しようとするお客様にとっての「入り口」となっているといえます。ホームページにおいて、知りたい情報をわかりやすく提供し、閲覧者に「行ってみたい」という気持ちを喚起することが、来園者の増加や満足度の向上につながると考えられます。

ホームページから最新の情報をこまめに更新し、常に新鮮な情報を発信し、ホームページ閲覧者を「来園者」につなげていくような情報発信に努めます。

さらに、ICT の長所である「双方向の情報のやり取り」を活かし、利用者に合った情報や情報交換の場を提供し、特に若年層の関心を高め、魅力向上と集客につなげます。

- Wi-Fi 等の情報インフラ環境を整備し、便利に楽しく情報サービスが利用できる環境づくりを推進するとともに、常に最新の技術を利用したサービス提供を検討していきます。
- 携帯電話やタブレット端末を使った、楽しく面白い情報提供の仕組みを構築します。
- ホームページからの情報発信機能を高めます。
- 動物公園と来園者双方向の情報交換の場の充実を推進し、動物公園のファンやリピーターの増加につなげていきます。

【動物公園ツイッター】



(3) おもてなしの実践

千葉市動物公園は「動物園」や「都市公園」という機能を持っていますが、加えて「観光施設」として地域の賑わいを高めていくことも期待されています。

お客様に対する親切で丁寧な対応や、施設設備を使いやすく保つことは、おもてなしとして基本となることから、接客や対応について動物公園で働く全職員が共通の考え方、価値観を持ってお客様をお迎えできるような体制づくりを重視していきます。

さらに、「動物の展示」や「案内・サイン表示」においても、「動物公園」としてのおもてなしとして位置づけ、統一感やわかりやすさを重視していくとともに、接客、対応を含めた、トータルでのおもてなしを実践することで、お客様に感動を与え、非日常感を高めていきます。

おもてなしの実践を通して、動物公園の価値を高め、首都圏を代表するような集客施設を目指します。

- エントランスは動物公園の「顔」という考え方に基づき、案内や情報提供だけでなく、季節感あふれる演出を心がけます。
- 千葉都市モノレール「動物公園駅」構内から人工地盤を経て正門に至るイントロダクション部分に、動物に因んだ演出を施し、動物園への期待感を高めます。
- 園へのアクセスの容易性やわかり易さ等を向上させ、進入路や出入口等の増設や改善について、関係機関及び庁内関係部局にも働きかけながら検討を進めます。
- お客様が最初に通る正門、北門、西門においては、動物がお客様をお迎えする「ウェルカム動物」を配置します。
- 職員だけでなく売店やレストランの職員も含めた、動物公園スタッフ全員の「おもてなし」意識を高め、ホスピタリティ溢れる動物公園全体の雰囲気づくりに取り組みます。
- 職員、特にお客様との接点の多い飼育担当者の好感度の向上や清潔感を維持する取組みを推進し、お客様に気持ちよく利用していただけるよう努力していきます。

【正門ウェルカム動物】



2 快適性と魅力の向上

(1) ユニバーサルデザインの充実

千葉市動物公園は約34haの広大な敷地の中に設置されており、園内の移動は徒歩を前提として園路を設置しています。

敷地は低地と台地からなっており、動物公園駅側から駐車場にかけては低地、動物展示施設は台地の上に設置されているため、来園者は必ず坂道を登って動物を見に来る構造となっています。

来園者の年齢層は赤ちゃんからお年寄りまでと幅が広く、さらに、小さいお子さん連れのご家族が来園者の中心となっています。近年では、さらに祖父母を含めた三世代のご家族の来園者も増加傾向にあり、このような方々が移動しやすい園路整備、施設整備が求められています。

新たに設置する施設についてはユニバーサルデザインを取り入れた設計とすることはもちろん、既存の施設や案内表示についてもユニバーサルデザインを意識した改修をすすめていきます。また、傾斜地が多いことを前提に、関係法令に基づいた勾配に配慮した園路整備を推進するなど、小さなお子様からお年寄り、障害を持つ方、外国人の方にもやさしい動物公園を目指します。

- 園内を快適で安全に移動できるよう、園路の舗装や段差に配慮し、乳幼児のベビーカーや障がいを持つ方の車いす等に対応した整備を推進します。
また、ベビーカーや車いす等の貸し出しについて、充実を図ります。
- サイン表示においてもユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、誰にでもわかりやすく、見やすい表示に取り組むとともに、外国語対応を進めていきます。
- トイレについては、内装や照明、温水洗浄便座の設置など快適性を高めるとともに、改修に合わせ多機能化を進めていきます。

【ユニバーサルデザイン園内マップ】



(2) 飲食・物販機能の充実

来園者の楽しみとして、飲食やお土産は欠かすことのできない重要な要素です。

アンケート調査では、レストランや売店等の魅力アップについて特に要望が高く、来園者は飲食、物販の魅力を重視しています。また、近年では「カフェ」が一定の評価を得ており、食事だけでなく休憩としても利用されるようになっていきます。

現在、動物公園にはレストランが一か所と売店がエントランスを中心に6箇所設置されていますが、営業時間、設置場所、内容とも改善の余地が多分に見受けられます。来園者ニーズに合ったサービス内容の見直し、充実により、来園者の満足度を向上させることが求められています。

他園の事例では、大手飲食チェーン店の園内での出店やコンビニエンスストアの出店、百貨店スタッフなど専門家のアドバイスに基づく飲食物販機能の戦略的展開により、集客力の向上につなげています。

飲食や物販を、動物展示と同様に動物公園での大切な思い出の一部に位置づけ、出店事業者の選定や運営手法、商品開発など全体を見直し、適切なマーケティング分析とマーチャンダイズにより来園目的の一つとなるよう魅力を高めていきます。

- 出店事業者の選定手法の改善を検討し、来園者ニーズに対応した事業展開を目指します。
- 新たな飲食施設の設置を検討し、利便性と魅力の向上に努めます。
- 観光集客施設として、千葉市の観光の魅力を発信するような物販を実施し、千葉市の観光PRの一翼を担っていきます。

(3) 休憩機能の充実

動物園は幼稚園や保育園、小学校の遠足の間として人気があり、毎年多くの団体・学校を受け入れています。

弁当を食べたり休憩したりする場所として、広い芝生が利用されていますが、日陰となる屋根の付いた休憩施設が不足していることが、千葉市動物公園の課題となっています。団体客だけでなく、子ども連れの家族からも休憩施設の整備は要望が高くなっています。また、近年増加している高齢者の方にも、広い園内を移動するのに休憩所の増設が必要との要望も多く聞かれています。

広い園内に対応し、お年寄りや小さい子ども連れの来園者が気軽に休むことができるような快適な休憩施設や、荷物などを預けることができる大型のコインロッカーや一時保管施設を設置し、観覧に専念できるための利便性を充実させます。

また、団体利用者の集客力を高めるため、団体客に対応できる大型の屋根付休憩施設を新設します。

ベンチについては、座ったままで動物を見ることができるよう設置場所を工夫し、三世代でゆっくり動物を観察できる環境を整えていきます。

- ベンチを増設するとともに、既存のベンチへ屋根の設置を推進し、ゆっくり休める休憩所を充実します。
- 子どもゾーンにおいて大型休憩スペースを整備し、団体客の収容力を高めます。
- 乳幼児や高齢者の来園者が多いことを念頭に置いた休憩施設の充実を推進します。

【ベンチからキリンを見るお年寄り】



(4) サイン・案内機能の充実

案内板は、広い園内を迷わず、効率的に巡回するために重要な役割を持っています。開園以来、案内板については大幅な見直しは行われておらず、経年劣化とともに全体的に案内機能が低下しています。また、必要に応じて案内板を設置してきた背景もあり、統一感も保てない状況です。

リスタート構想策定に合わせて、園全体をカバーする「トータルサイン計画」を策定し、案内板や動物の説明板、樹木や花木の説明板、解説などをわかりやすく改善し、公園機能の充実も図ります。

また、案内板の電子化を計画的に導入し、タイムリーな情報提供と見やすさを重視した表示に努めるとともに、広い園内で現時刻の認識と行動の計画性を容易にするための時計表示等についても十分な配慮を行います。

- 案内板の内容や見やすさだけでなく、来園者の動線に配慮しながら案内板の設置か所を改善していきます。
- 動物舎の説明板について、統一感を持たせて改善するとともに、飼育職員の思いが伝わるような親しみある解説板の掲示を工夫します。
- 案内板の設置だけでなく、園路上のペイントなど複数の手法を用いて、来園者が楽しく園内を巡回できるように工夫します。
- 市の方針に基づいた外国語への対応を進め、幅広い来園者へ対応できるよう、案内機能を高めます。
- 正門、西門、北門については、デジタルサイネージなどの導入を進め、最新の情報提供に努めます。

【解説板】



(5) 快適な園内移動サービスの提供

本園は、約34haの広大な敷地を有し、急勾配の多い形状であるため、高齢者や障がいのある方にとって園内の移動は負担が大きくなっています。

来園者アンケート調査では、自動車等による園内を移動できるサービスの導入について要望がみられます。駐車場や遊園地のある低地から動物展示施設までの道のりも急な坂道であること、正門から動物展示施設までの坂道が長いことなど、移動に時間がかかることも、来園者の移動サービスに対する要望の一因と考えられます。

リスタート構想におけるゾーンの見直しにあわせて、急こう配部分については、園路の整備や新たな移動手段の導入検討など、幅広い観点から見直し、高齢者や子どもが楽しく巡回できるよう工夫します。新たな移動手段の導入については、地形や設備投資、維持管理費と来園者ニーズなどを総合的に考慮して検討します。

- 利便性だけでなく、都市公園であることを生かしながら「歩いて楽しい」園路整備を目指します。
- 三世代での来園者を意識し、できるだけ移動負担の少ない園路整備を推進します。
- 他園の動向を参考としながら、園全体の新たな移動手段の導入を検討します。

【勾配があり長い園路】



(6) 子どもや高齢者向けサービスの充実

中央広場にある噴水は、夏には水遊びの子どもたちでいっぱいになる人気スポットとなっています。もともと、子どもの遊び場として整備されたものではないため、子どもの年齢の幅が広いことや、子どもの数に対して噴水部分の面積が狭いこと、子どもの保護者が座る場所がないことなど、水遊びの場としては対応が不十分となっています。

子どもたちは、どんなところでも想像力を働かせて遊ぶことができます。特に、千葉市動物公園は都市公園として整備されているため、樹木や芝生が多く、子どもたちの遊び場としても様々な可能性があります。

また、近年来園者の割合で増加傾向にある高齢者の中には、健康づくりという視点から千葉市動物公園を訪れる方が増えています。他園の事例では、ウォーキングの場所として位置づけ、特別なプログラムを用意している園もみられます。

今後は、動物を見たり、動物と触れあうことだけでなく、公園としての利用方法を積極的に発信していくことで、新たな来園者の開拓につなげていきます。特に、子どもや高齢者が目的を持って来園できるような仕組みを構築し、新たな動物公園の楽しみ方を提案していきます。

- 子どもが水遊びを楽しむことのできる専用施設を整備し、安全性を確保します。
- 高齢者向けの乗馬など、動物公園を多様な活動の場として活用できるプログラムを提供し、動物公園の新たな楽しみを増やしていきます。

【中央広場噴水】



3 戦略的な集客

(1) 千葉市動物公園ブランドの創出

レッサーパンダの「風太」は全国的に有名になり、平成17年の朝日新聞で注目を集めて以来8年間にわたって千葉市動物公園のマスコットキャラクターとして活躍し、千葉市動物公園の知名度の向上に大きく貢献しています。

開園当初から利用している千葉県の形をしたゴリラのロゴマークは、千葉市動物公園の看板ロゴとして定着しています。

風太人気から8年が経過していることや、ゆるキャラブームに支えられるご当地ブーム等の時代背景を鑑みると、新たなマスコットキャラクターの開発が必要な時期となっています。既に認知度の高い風太を「風太」については、これまで通りPRしていくとともに、「風太」に続く新たなマスコットキャラクターの開発に取り組んでいきます。また、マスコットキャラクターの露出を高め、千葉市動物公園をより印象付ける活動に積極的に取り組み、千葉市動物公園が集客観光施設として定着することを目指していきます。

- 千葉市動物公園の「顔」である「風太」を意識的に活用し、メディアへの露出を高め、千葉市動物公園の認知度向上に役立てます。
- 新たなキャラクターの開発に着手するため、キャラクターの募集・選定方法などを検討していきます。
- 視覚だけでなく言葉として印象付けが可能となるよう、キャッチコピーを検討し、千葉市動物公園の知名度の向上に取り組めます。
- マスコットキャラクターやその着ぐるみ、関連グッズについては、乳幼児から若年層をターゲットとして訴求力のある「かわいらしさ」や「カッコよさ」による戦略的展開を行います。

【風太】



【千葉県の形をしたゴリラのロゴマーク】



(2) ターゲットの明確化

動物園は、もともと子ども連れの家族が多く訪れる施設です。千葉市動物公園の来園者の大半は就学前の子どもを連れた家族ですが、近年は、祖父母と孫といった「親子三代」での家族連れや、子ども連れの母親グループの増加が目立ってきています。

一方で、中学生以上の学生や未婚の若者は少数であり、集客力の向上という視点では、これらの若者世代を呼び込むことが課題となっています。

より多くの方に利用してもらうためには、これまでも多く来園している子どもがより楽しめるような仕掛けを充実することはもとより、これまで来園したことのない人も来園したくなるような取組みが求められます。

集客に際しては、ターゲットを明確に設定し、効果的な方策を検討していきます。また、まだ一度も動物公園に来たことのない市民に対して「行ってみよう」と思わせる仕掛けを企画し、新たなファンを増やし、千葉市動物公園の基本理念である「私たちの動物園」に近づけていきます。

さらに、都市公園としての魅力を最大限に生かし、動物以外の魅力で、新たな集客につなげていきます。

- 「子ども」「高齢者」「カップル」など、ターゲットを明確にしたうえで、集客イベントを企画・実施し、集客効果を高めていきます。
- 来園者の中心である「小さい子ども連れ」をターゲットとした集客方策を充実し、リピーターの確保、増加につなげます。
- 「祖父母と孫」といった、新たな来園者像に対応した集客方策の開発に取り組めます。
- 都市公園である強みを生かした集客手法の企画・実施により、来園者のすそ野を広げます。
- 「一度も来園したことがない市民」をターゲットとした集客方策を検討します。

【芝生広場でのお花見】



(3) ファンの拡大

動物園は、動物好きの方に支えられる施設です。リピーターとして何度も動物園を訪れるお客様は少なくなく、そのような方に本当のファンになっていただけるような取組みを充実し、感謝の気持ちを表すことが重要です。

繰り返し来園したくなるような「仕掛け」を随所に導入し、リピーターを増やしていきます。

複数回にわたって来園していただくお客様に対しては、年間パスポートを発行していますが、その利用者数は少数にとどまっています。その一因として、年間パスポート料金の高さが考えられます。他園の事例を見ると、入園料の3回分程度が年間パスポート料金の設定となっている園が多く、千葉市動物公園は5回分であるため、割高感が否めません。

年間パスポートの料金については見直しを検討し、利用者数の拡大につなげ、リピーターの増加を目指します。

団体客については、駐車場の広さを生かし、旅行業者等との情報交換や連携を密にして団体客の受け入れ態勢を整えるとともに、団体客に対して魅力的なサービス提供を実施していきます。

- 集客増につながるように、パスポート料金設定の見直しを検討します。
- 来園回数に応じた特典の付与を検討します。

(4) 多様なイベントの実施

「写生」「写真撮影」「音楽会」など、動物を通じて楽しむことのできるイベントを強化し、持続的に情報発信することで、来園者の満足度の向上とリピーターの獲得につなげます。

また、「お年寄りと孫」、「お母さんと未就学の子ども」など、ターゲットを特定したイベントの企画を行い、誘客効果を高めるとともに、閑散期における効果的なイベントを実施し、入園者数の平準化とリピーターの増加を図ります。

- カップルや高校生、大学生など、来園者に占める比率の低い年齢層をターゲットとした新規イベントを実施することで、新たな来園者の開拓に取り組みます。
- シニア層を対象として、平日に実施できる参加型イベントなど、今後増加が見込まれる年齢層をターゲットとした企画イベントを強化していきます。
- 来園者の中心である、小さな子どもとその保護者をターゲットとした、親子で一緒に参加できる体験イベントを充実していきます。

【写真教室】



(5) 民間企業や大学との連携強化

千葉市動物公園は、千葉都市モノレールの「動物公園」という専用駅を持っており、交通手段に恵まれた施設ですが、その強みを生かし切れていない状況にあります。来園者の大半は自家用車で来園しており、動物公園駅を利用する割合は少数です。動物公園の来園者だけが動物公園駅を利用するため、駅から正門までの賑わいの創出が課題となっています。最も身近な企業である千葉都市モノレール㈱と利用促進について検討し、乗降客数と来園者数の増加につながる仕掛けを導入し賑わいを創出することが必要です。

また、動物公園駅から動物公園正門までの間は、駅舎内、ペDESTリアンデッキとも、誘導サインや案内が不足していることから、サインや案内を充実するとともに、駅から正門までを動物園らしい演出を施し、非日常感を高めていきます。さらに、千葉都市モノレールと共同のイベントの実施を強化するなど、モノレールを利用して来園することの楽しみを高め、来園者数増と乗降客数増の相乗効果を追求していきます。

また、観光協会や商工会議所などの団体との連携や、すでに連携している百貨店等の企業との連携を強化していくとともに、集客に直接つながる旅行業者やバス会社等との連携も検討し、民間との幅広い連携体制の構築に努めます。

千葉市内には多数の大学や高等学校があり、一部の学校とは連携した事業展開を実施しています。動物や環境など、動物園の特徴を生かした学習、研究の場や、学生のフィールド活動の場としての活用を推進していくことで、新たな視点で動物公園を見直し、魅力づくりに生かしていきます。

- 動物公園駅の掲示・展示に動物の装飾を施し、来園者の期待感を高め、動物公園と駅との一体感を演出していきます。
- 千葉都市モノレール㈱とは、集客増を共通の目的として連携を深め、共同事業を強化していきます。
- 地元大学や高等学校との接点を拡充し、学生の活動の場として、また、学生の発表の場として動物公園を活用していきます。

【千葉都市モノレールと共同のディスプレイ】



目標5 持続可能な運営体制の構築

1 財務体質の強化

(1) 収支の改善

千葉市動物公園は、開園当時は多くの来園者で賑わっていましたが、少子化やレジャーの多様化などの時代の変化とともに、来園者数は減少傾向にあります。

市民の憩いの場であり、また教育施設の側面を持った公共施設であることから、他の公営動物園同様に、経費に比して入園料などの受益者負担率は低く抑えられ、その分、市税を投入して運営しています。

経費全体の見直し等により、市税投入額は減少傾向にありますが、動物公園全体の運営費に占める割合は、遊園地部分を除くとほぼ8割で横ばいです。

少子高齢化に伴い、今後さらに税収の減少や扶助費の増加が予想される中、数億円の税金を投入し続けることは、千葉市全体の財政運営への影響も大きく、動物公園における収支の改善は喫緊の課題です。

将来にわたって持続可能な経営を続けるため、収入面では来園者数の増加により、入園料を確保するとともに、個人や企業からの寄付や広告料等の収入の増加を強化していく必要があります。また、支出で最も高い割合を占め、これまで見直しが難しかった人件費の圧縮方法についても具体的に検討・実施し、早急に収支の改善を図っていきます。

- 来園者数を把握し、その動向を分析し、来園者増加のための取組みにつなげていきます。
- 来園者数の最終目標を100万人とし、目標達成に向けて進捗管理を行い、集客方策の見直し等に活かしていきます。
- 収支改善を目的とした入園料の設定の見直しを検討します。
- 人件費の削減のため、職員の定員管理と適正配置を行い、効率的で効果的な人員配置に努めます。

(2) 寄付金・協賛の拡大

リスタート構想の推進では、多額の設備投資を伴ったゾーンの見直しや新たな機能の充実により魅力を高め、来園者数の増加を目指しています。

経常的な支出の見直しには限界があり、収支の改善のためには、寄付金の増加による収入の拡大が最も効果的と考えられます。

近年では、社会的役割を果たすことを目的とした社会貢献活動に力を入れる企業が増加しています。特に地域に密着して事業展開している企業は、知名度の向上や顧客の獲得にもつながるような社会貢献活動に力を入れる傾向にあります。

地域に密着した「私たちの動物園」として持続的な運営ができるよう、市民や企業からの支援により収入を支えていく新たな仕組みを構築するとともに、既存の仕組みについては、利用しやすいように制度の内容を見直し、参加者のすそ野を広げていきます。

- 「動物公園サポーター制度」の周知を強化するとともに、参加しやすいよう制度の見直しを実施し、個人の市民からの寄付金の拡大を目指します。
- 気軽に寄付行為ができる仕掛けを検討し、寄付に参加しやすい仕組みづくりに取り組みます。
- 動物公園に対する愛着を高め、寄付の目的や効果、資金使途が分かりやすい寄付制度を導入します。
- ボランティア活動など、金銭以外の寄付の仕組みを構築します。

【サポーター招待（ゾウ舎）】



(3) 広告を活用した収入の確保

動物園は集客施設であり、観光施設という位置づけであることから、新たな動物の導入や動物展示の見直しなど、定期的に一定の設備投資を実施し、リニューアルすることで集客が確保できるという側面があります。しかし、その費用は多額であり、入園料や市税だけで長期的に支え続けるには大きな負担となります。

自治体の運営する他園の事例を見ると、近年はさまざまな仕掛けにより、企業からの寄付金を集める活動に注力している園が少なくありません。

リスタート構想における子どもゾーンの充実や猛獣の導入など、集客増につながる新たな整備や取組みに合わせて、ネーミングライツの導入や動物別の企業協賛による広告掲載など、動物園そのものを広告媒体とすることを検討します。

また、広告を兼ねた備品の導入や、企業が主体となって実施するイベント会場として動物公園を開放するなど、企業広告収入につながるような取組みを強化します。

- 「子どもゾーン」完成に合わせ、ゾーン単位のネーミングライツの導入を進めていきます。
- 猛獣（ライオンなど）導入などに際し、動物に因んだ企業協賛の募集の仕組みを構築し、定期的に募集できる体制づくりを進めます。
- 企業名入りの備品の設置や新商品の園内での啓発利用など、金銭以外でも企業が企業名・商品名等を広告できる仕組みを導入します。

(4) 財務管理手法の改善

動物公園予算は「特別会計」として独立しており、臨時的、突発的な対応においてタイムリーな予算措置が難しいなど、集客施設として会計上の柔軟性が不足しています。

また、年度会計であることから単年度収支に終始しがちで、これまでの投資額や市税投入額の累計など財務内容の全体像が見えにくい状況です。

地方公共団体の普通会計においても発生主義の活用等による財務情報の充実が進められています。収支の改善に取り組むためにも、現状の財務状況を的確に把握し、分析することが必要です。

財務諸表など企業会計の考え方・視点を導入し、収入と支出のバランスを分かりやすくするとともに、経営状況の経年変化を分析します。また、経営改善計画を策定し、市税投入額の動きに着目していくとともに、収入目標を設定し、市税投入額の減少を目的とした健全な財政運営を目指します。

また、地方公営企業会計制度の見直しなど国の動向を見ながら、一般会計への移行の可否の検討を進めるとともに、指定管理者制度の導入や独立行政法人化についての検討を進め、資産評価など会計基準の見直しを行います。

- 企業会計の考え方を取り入れ、財政状況や経営成績が把握しやすい指標を導入し、現状を把握するとともに、適切な経営方針の策定や経営の効率化につなげていきます。
- 適切な財務管理を実施することで、市民に対して財務内容の透明性を高めます。

2 管理運営体制の見直し

(1) 組織体制の見直し

動物園は、市民の憩いの場や教育・生涯学習の場、環境保全や命の大切さを伝える場など、多岐にわたる役割を担っている施設です。

千葉市動物公園は千葉市において都市局公園緑地部に位置づけられ、観光施設や教育施設としての役割に合致しているとは言い難い状況です。

また、園内の組織は、大きく分けて管理課と飼育課の二つとなっており、企画広報や教育を担う専門部署が存在しない状況です。

職員の配置においては、委託業務を除いて、すべての業務に正規職員が携わっており、そのことが経常経費の圧迫につながっていますが、一方では、長期的展望に立った職員のスキルアップが可能であり、多様な人材を育成できるというメリットがあります。

この長所を生かし、園内の組織をより柔軟な体制に見直すことで、固定的な役割意識を払拭し、全職員のスキルアップと効率的で効果の高い業務遂行を目指します。

集客力の向上に資する人材を育成するため、専門的な知識を持った職員を配置するとともに、専任担当者の配置を検討し、来園者の増加と満足度の向上につなげていきます。

また、管理運営体制や組織体制の効率化を図っていく上で、指定管理者制度の導入などについても早急に検討を進めます。

- 現在の課制度からグループ制等へ移行し、多様な業務に柔軟に対応できる体制づくりを進め、来園者満足度の向上に向けた組織に再編します。
- これまで十分とは言えない体制であった営業部門の強化や、より質の高い教育機能を充実するため、専任担当者を配置します。
- 飼育職員については、チームで行う体制を導入し、飼育技術の向上はもちろんのこと、動物ガイドなどの企画や展示内容の質の向上を図ります。
- 動物園の組織自体に多様な機能を持たせるように強化し、独立した施設として機能することを目指すとともに、他の部署との連携も深めていきます。

(2) 民間活力の導入

レストランや売店の運営、売改札、清掃業務などにおいては、これまで許可制や委託事業で実施してきましたが、随意契約による委託など、事業者の選定において、事業者間の競争が働かない仕組みが長年続いてきた経緯があります。そのため、来園者の満足度や動物公園の魅力の向上に資する取組みが不十分となっていました。

園内の飲食・物販については、開園時間が限られることや天候によって集客にバラつきがあることで、園内で出店を希望する事業者自体が少ないといった傾向が見られるため、動物園としての魅力を高め、集客力を強化することが必要です。

動物公園内で実施する委託事業については、民間の知恵を最大限に活用し、経費の圧縮につながるよう、業者選定手法等の見直しを実施します。

動物公園全体の運営における民間活力導入の検討も、継続運営のために必要です。人件費割合の高さについては市の直営施設であることによるところが大きく、管理運営体制を大幅に見直すことなしには、支出の削減は難しい状況です。

国内の自治体が運営する動物園では指定管理者制度が多く導入されており、導入後は一定の経費の削減に成功している事例が少なくありません。しかし、その多くは、これまでも委託事業として運営してきた財団法人などの外郭団体が指定管理者となっており、民間企業が新たに指定管理者となった事例は少数にとどまっています。

千葉市の厳しい財政状況の中、リスタート構想を着実に進めていくため、収支バランスの改善に取り組むながら、指定管理者制度の導入を検討していきます。

- 許可制度や委託事業の範囲を見直し、来園者サービスの向上に取り組めます。
- 委託先の選定方法を見直し、多様な事業者が参入し、サービスの向上につながり、競争原理の働く仕組みへと移行します。
- 指定管理者制度の導入を想定し、指定管理業務の範囲や職員の配置など条件整備を進めていきます。

(3) 職員の意識改革

人材育成に対して適切に投資し、他園や研究機関との交流や学会、研修への参加を促進するとともに、他園との人事交流を活性化し、職員の意識改革につなげます。

来園者サービス向上のため、接客に関する研修をすべての職員に実施し、集客施設としてふさわしい接遇を身に着けるとともに、組織が横断的にコミュニケーションを図れる体制とします。

飼育職員については、動物公園の顔であり、来園者に最も近い存在であるため、飼育技術の向上だけでなく、動物ガイドの企画・実施などに取り組めるような環境づくりを進めます。

(4) リスタート構想の進捗管理

本構想の理念に基づき、基本目標を実現するために、毎年度検証していきます。

併せて、年に数回の来園者アンケート実施を定例化し、ホームページで公開していくとともに、来園者満足度などを評価の指標として経年変化を分析し、ご意見、ご提案を動物公園運営に活かしていくなど、常に改善に取り組んでいきます。

また、定期的な構想の進捗管理、評価を踏まえ、市の実施計画をはじめとする他の計画行政や財政状況を勘案しながら構想を推進するとともに、構想内容を柔軟に見直していきます。

3 地域に開かれた動物園へ

(1) 地域の活性化への貢献

千葉市動物公園が観光拠点となり、多くのお客様に来園してもらえるようになることは、地域の活性化に資する、最も期待される役割です。

さらに、動物公園への来園者が、動物園だけでなく周辺の地域を散策したり、買い物等を楽しんだりすることにつながれば、経済的な波及効果も期待できます。

このような相乗効果を創出するためには、地域との連携や協力が欠かせません。動物公園に「行ってみたい」と思っただけのような取組みの推進とともに、地域と連携した取組みを推進し、動物公園だけでなく周辺地域一帯、さらには千葉市全体の活性化につながるような賑わい創出を目指します。

また、周辺地域の住民が気軽に訪れ、日常的に活用できる場として開放していくことも必要です。動物公園では非日常感を味わうことのできる特別な場所であるとともに、周辺地域にとっては身近な場所であるという一面を持たせることで、より地域に密着した施設となるよう、地域とのコミュニケーションを大切にしていきます。

さらに、市民に身近なペットや野生動物に関わる動物相談窓口の設置についての検討を進め、動物園と市民との親近感と利便性を向上させます。

- 「千葉市の文化の核」として機能するような文化拠点の役割を果たす動物園を目指します。
- 地域の行事・イベント開催への参加や協力など、地域活動の場としての活用を推進します。
- 自治会・商店街等の地域団体とのコミュニケーションの場を定期的に設け、地域に開かれた施設を目指します。
- 地域の子育て支援、障害者・高齢者福祉に関する取組みに協力し、福祉のメッセージを発信していきます。

(2) 多様なボランティアの活用

ガイド、イベント、ふれあい指導、清掃など、園内での様々な活動にボランティア活動を取り入れ、市民が楽しみながら、自分に合った形で動物園にかかわることができる機会を提供していきます。

さらに、植樹活動や簡易な施設整備など市民参加型の活動を実施し、動物公園の整備に参加できる機会を創出し、より主体的なボランティア活動を増やしていきます。

- 動物ガイドや教育・指導だけでなく、作業なども含めた園内での多様な活動にボランティアの力を生かす仕組みを作り、ボランティア活動の場の充実を図ります。
- ボランティアの研修体制を強化し、ボランティアが参加する活動の場を増やしていきます。
- ボランティアの募集を強化するとともに、その受け入れ態勢を整えます。

【ボランティアによるガイド】



(3) 市民参加機会の拡大

動物公園には動物だけでなく、豊かな自然環境があります。これらを活動の場として広く提供していく体制づくりを進め、動物公園を多くの人に利用してもらえるようにしていきます。

また、市民等のアイデアにより、園内の広場や施設を利用したイベント、展示等の実施など、市民等が園内で活動しやすい体制整備を進めていきます。

さらに、動物公園をイベントの場として開放し、NPOや団体の活動の場として提供することで、地域活動の活性化に貢献します。

- 大学等との連携により、動物をテーマとした展示イベントの開催など、大学の活動や発表の場、フィールドワークの場としての活用を促進します。
- 科学館など園内施設を開放した「提案型イベント」の実施を増やします。

【市民参加型イベント ちばZOO フェスタ】



4 省資源・資源循環型動物園を目指して

(1) 再資源化の推進

施設全体が環境教育の教材となるよう、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進とリサイクルシステムの構築（堆肥、間伐材など）を実施し、動物公園内での資源の活用を推進します。

(2) 再生可能エネルギーの積極活用

施設の新設・改修に合わせて、太陽光発電や小水力発電の導入等を進め、再生可能エネルギーの利用を推進します。

また、配置した再生エネルギーの成果をわかりやすく展示し、環境教育の教材として位置づけます。

(3) 里山環境の創出

樹木や花壇については、計画的に伐採、更新し、来園者が季節を楽しみながら散策できるよう維持管理します。

大池はビオトープとして活用し、周辺地域と連携した活用方策を検討します。

また、伐採した樹木等は園内で活用、資源化したり、園内で農作業を行い堆肥を利用するなど、里山環境を再現するような取組みを推進します。

千葉市動物公園リスタート構想

平成26年3月

■発行 千葉市動物公園
千葉県千葉市若葉区源町280番地
電話 043-252-7566